

令和5年度「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」

参考資料 各種調査結果

目次

類似分野の先進事例調査	3
類似分野の先進的な取組調査 概要	4
類似分野の先進的な取組調査 参考情報（各取組一覧）	16
過年度事業フォローアップヒアリング調査	60
令和3年度 専門学校における社会人等受入れ等実態に関するアンケート調査	66

類似分野の先進的な取組調査

類似分野の先進的な取組調査

- 企業等のニーズに基づいたリカレント教育プログラムの開発の参考としていただくため、「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」受託団体の類似分野における、先進的な取組に関する調査を実施。
- 本資料では、他の専修学校や各種教育機関における類似分野の先進的な取組(他にはない特徴的な点があるもの)を整理。
 - 結果的に文部科学省が実施した各種委託事業の採択事業も多数含まれる。

先進的な教育実践例 一覧表(1/2)

- リカレント教育プログラム開発の参考にしていただくため、今回受託団体が開発する分野の事例を広く収集し、プログラム構築のポイントを整理した。
- 以下、今回参照した事例の抽出にあたっての留意点。
 - 主として16受託団体に該当する分野(①工業、②医療、③衛生、④教育・社会福祉、⑤商業実務、⑥服飾・家政、⑦文化・教養)の先進的な取組を収集。内容面、体制面の情報を整理。
 - 必ずしもリカレント教育(主に社会人向け)だけにとらわれず、企業等の新しいニーズを捉えて開発している等、今回の趣旨に合う取組であれば、一般学生向けの取組も広く取り上げた。
- 各校の取組(①工業分野)の概要を、以下一覧表で整理した。

分野・業種	学校名	プログラム名	特徴の概要
①工業(建設)	日本工学院北海道専門学校	BIM講座	BIM活用による精度の高い施工図作成、作業効率向上
①工業(建設)	明石工業高等専門学校	建設DXをけん引する次世代型エンジニア育成事業	DX技術や設備による実習でDXスキルを醸成、他学科・他校にプログラム展開
①工業(情報通信)	岡山情報ビジネス学院	データマーケター養成講座 社会人対象有	実際の企業のビッグデータを利用、データの分析・活用スキルを身につける
①工業(情報通信)	新潟コンピュータ専門学校	5G時代の新たな産業創出に向けた産学官の取組(5Gコース)	ドコモとの連携で学内に5G環境を整備、5G活用の実証実験に参画
①工業(情報通信)	VRプロフェッショナルアカデミー	XRベーシックコース 社会人対象有	リスキリング助成金で、プログラミング、Unity未経験者もAR/VRアプリを開発
①工業(自動車整備)	日本工科大学校	次代を担う自動車整備士DX人材養成プログラム	自動車産業DX、ディーラーDXでリテラシーを、哲学的対話教育で思考力を養う
①工業(自動車整備)	日本工科大学校	钣金・塗装技術習得のための遠隔教育 社会人対象有	スマホ利用の問題解決型コンテンツとゲーミフィケーションで主体的な学習促進

先進的な教育実践例 一覧表(2/2)

- 各校の取組(②医療分野、③衛生、④教育・社会福祉、⑤商業実務、⑥服飾・家政、⑦文化・教養)の概要を、以下一覧表で整理した。

分野・業種	学校名	プログラム名	特徴の概要
②医療	琉球リハビリテーション学院	リハビリDX人材養成 社会人対象有	リハビリにDXを導入できるコンピテンシーを養成する、社会人も単体で受講できるアタッチプログラム
③衛生(美容)	河原ビューティモード専門学校	AR・VR利用による実習アップデート 社会人対象有	VR教材の活用による精度の高い効果的な実習で早期の技術習得
④教育・社会福祉	沖縄福祉保育専門学校	介護・保育における実習の遠隔教育モデル	アイトラッカーでベテラン介護士の視線を体得、事故のリスク察知能力を身につける
⑤商業(観光・宿泊)	秀林外語専門学校	DX観光人材養成プログラム 社会人対象有	外国人対応社会人向け、多文化共生×観光×まちづくりのマネジメントとDX教育
⑤商業(観光・宿泊)	東京経営短期大学	観光ホスピタリティコース	ホテルオークラと連携し一流のサービススキルを習得、実習・就職先もオークラに
⑤商業(小売)	新潟ビジネス専門学校	医薬品・登録販売者学科	早期の資格取得で実店舗で1年半の有給実習、学費負担を軽減し実務経験を獲得
⑥服飾・家政	東京ファッションテクノロジーラボ	3Dモデリスト育成 社会人対象有	教育連携で先端3Dモデリスト教育を他校に提供、資格検定制度でスキルの評価も
⑦文化・教養(eスポーツ)	神戸電子専門学校	esportsエンジニア学科	eスポーツ大会企画・運営人材を育成、大会運営のための知識、機材の技術を学ぶ

①工業分野の取組状況

- 今回取り上げた取組は、専門学校、高等専門学校、民間が実施しているもの。一般学生向けだけでなく、**社会人を対象として講座を開講**している学校もある。
- 社会的ニーズ、カリキュラムの面白さや先進性、多様なキャリア選択を理由に一定の受講生が集まり、**自走できている学校もある**。
- 業界内での連携（業界ニーズの高い先端プログラムの活用等）や、実証実験への共同参画といった、**一歩踏み込んだ連携形態**が見られ、**成果創出を**図っている。

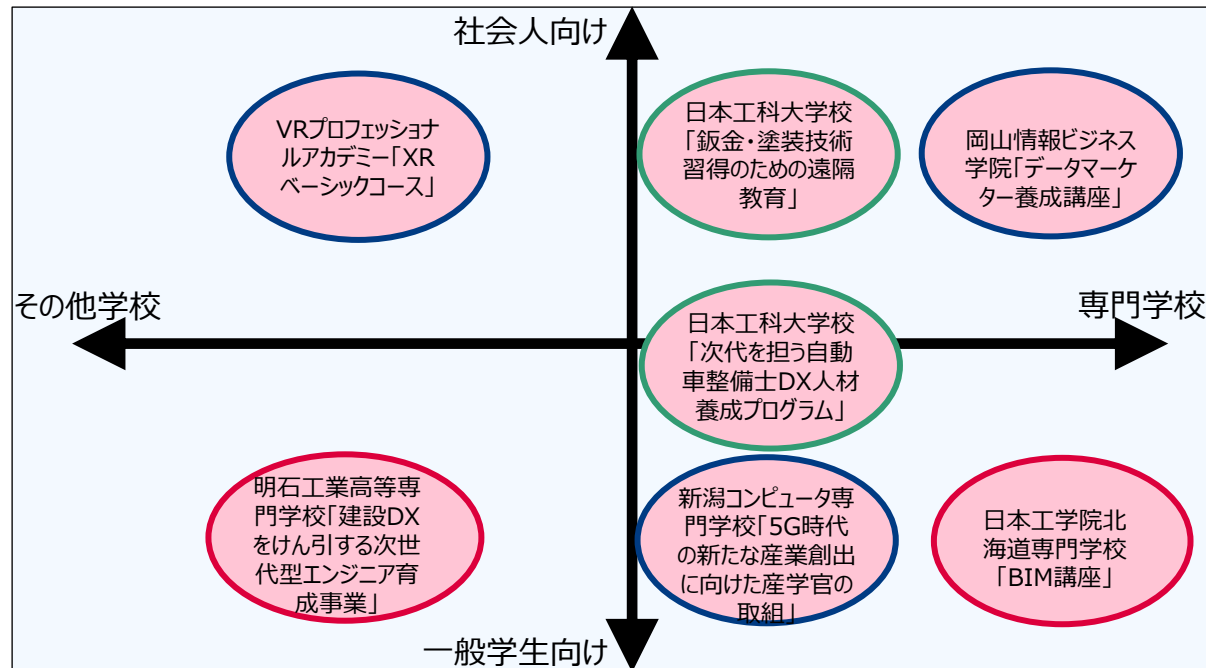


図 リカレント教育先進取組事例の分類【工業分野】
 (赤線枠は建設、青線枠は情報通信、緑線枠は自動車整備)

②医療分野の取組状況

- 今回取り上げた取組は、専門学校が実施しているもの。一般学生向けだけでなく、**社会人が参加することを念頭に置いた講座を開講**している。
- 今後の供給過多予測を踏まえ、**作業療法士の職域拡大や専門性向上といった新たなキャリアの構築の一助となる内容**(XR技術やIoT技術、AI技術、ロボット技術等)が盛り込まれており、受講生集めの工夫としている。
- 上記内容を盛り込むため、システム導入や技術的知見の提供等で**地元IT企業と連携**している。

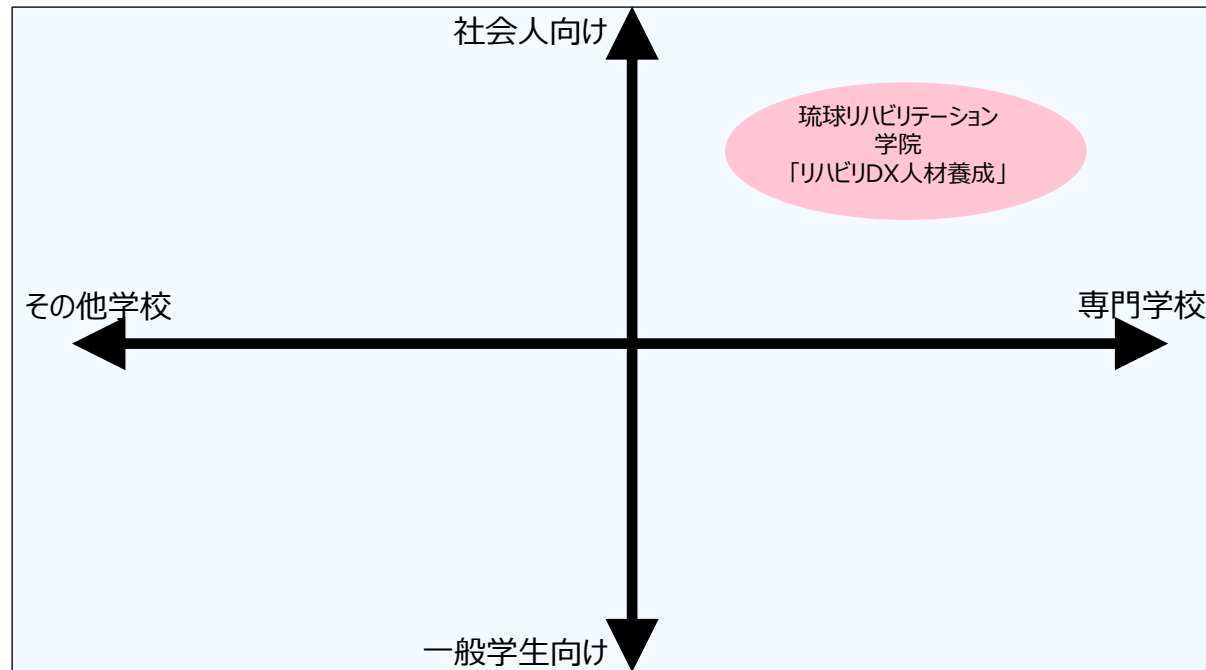


図 リカレント教育先進取組事例の分類【医療分野】

③衛生分野の取組状況

- 今回取り上げた取組は、専門学校が実施しているもの。**一般学生だけでなく社会人向け**でもあり、実際のサロンでの入職者教育にも使用可能なカリキュラムを開発。
- 従来は教員による実演を「見て学ぶ」ことでしか学べないとされていた美容技術について、**最新のIT技術を用いて効率よく・何度でも学べるようにし、講師・学生双方の負担を軽減**。
- プログラム開発にあたっては、美容知識／AR・VR双方の知見が必要になるため、大規模ヘアメイクサロンやCG制作会社等、**多様な企業との連携を行い、独自のプログラムを実現**。

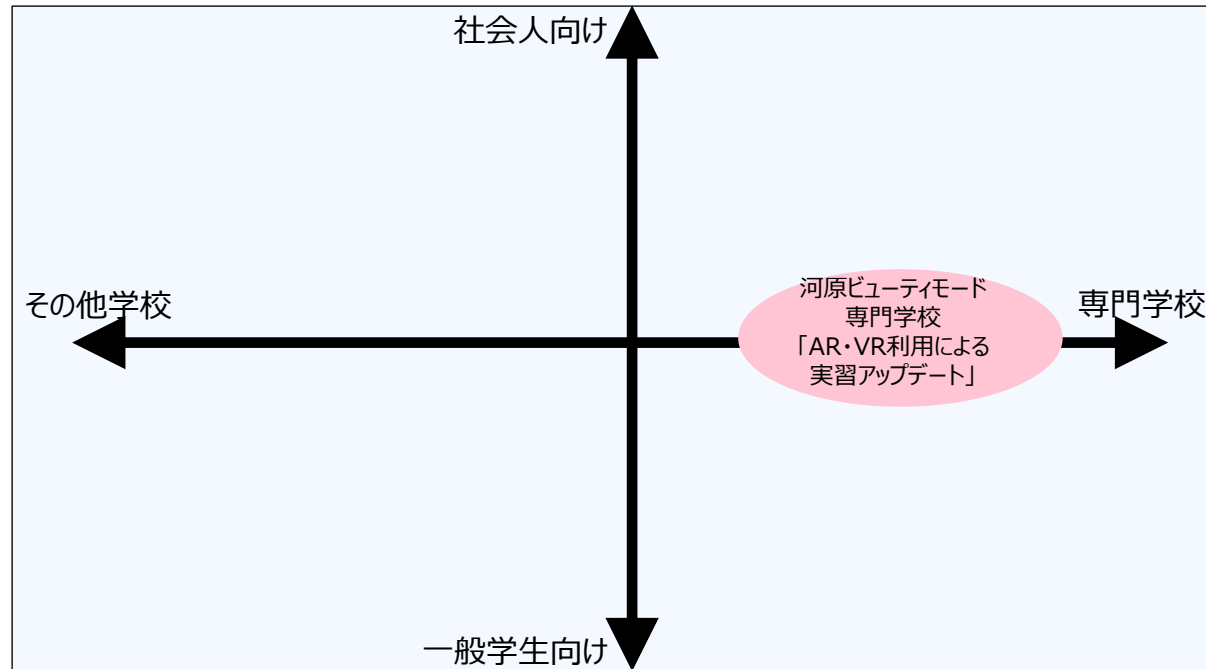


図 リカレント教育先進取組事例の分類【衛生分野】

④教育・社会福祉分野の取組状況

- 今回取り上げた取組は、専門学校が実施しているもの。一般学生向けだけでなく、ベテランの技能を若手職員に継承するための研修といった形で、**社会人向け講座への適用可能性**もあると推察。
- 対面でしか学べないとされてきた介護業務の知見について、**最新のIT技術を用いて遠隔でも学べる／遠隔だからこそ学べる内容**が盛り込まれており、受講生集めの工夫としている。
- 複数の**システム会社と連携**し、開発プログラムの調査検証・評価を受け、実現性を高めている。

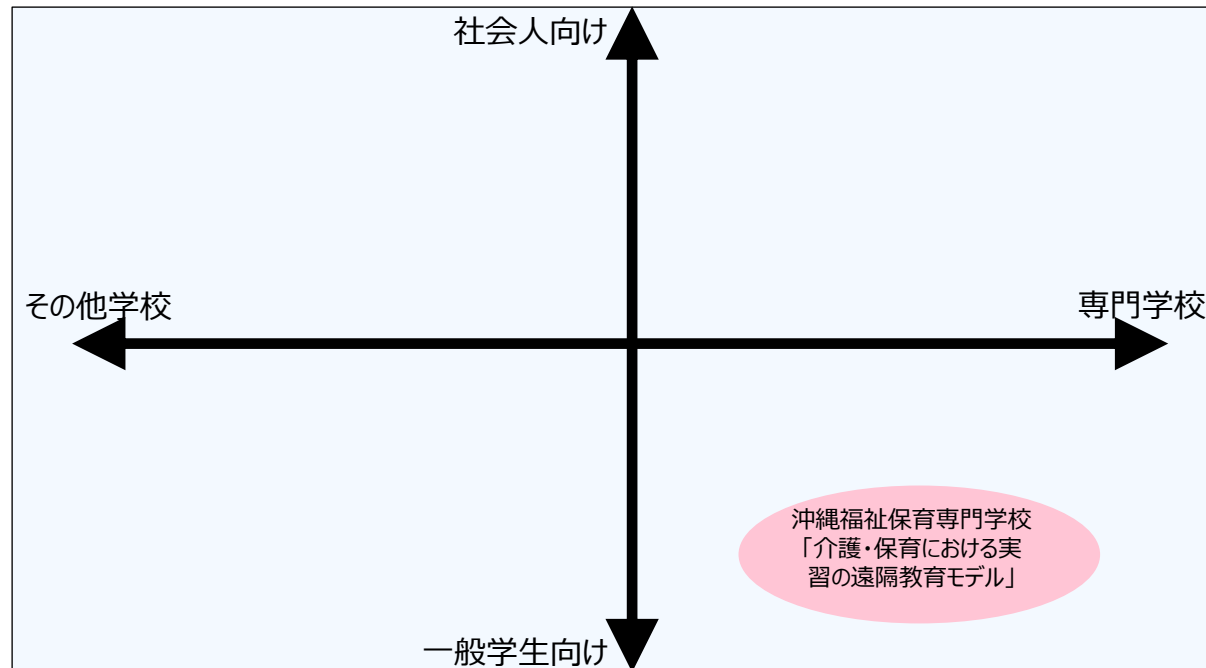


図 リカレント教育先進取組事例の分類【教育・社会福祉分野】

⑤ 商業実務分野の取組状況

- 今回取り上げた取組は、専門学校が実施しているものと短大が開講しているものがある。**社会人を主な対象**としているものもある。
- 観光・宿泊は、経営思考・財務知識・IT活用といった新たなスキルの習得、小売は費用負担や資格取得期間の短さといった既存スキルの効率的習得と、**打ち出す強みが対照的**である。
- 企業にとっては即戦力人材の採用、学校にとっては企業ネームバリューや費用負担に惹かれた学生確保等といった形で、**企業／学校双方にとってメリットのある連携により成果を創出**。

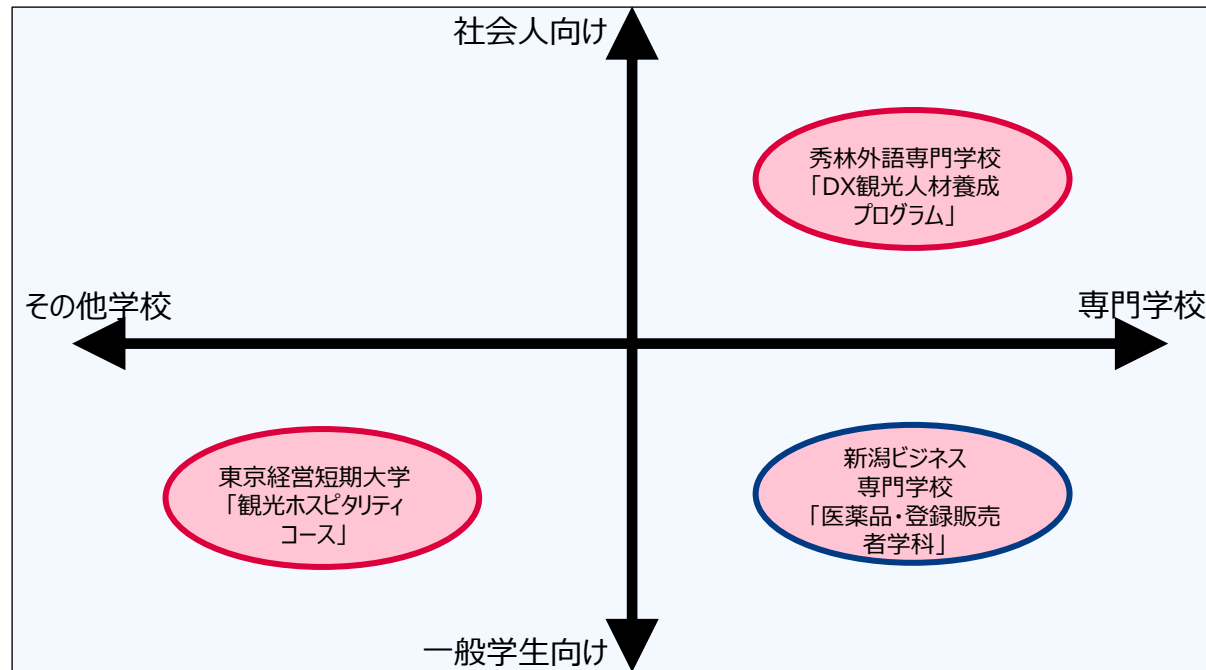


図 リカレント教育先進取組事例の分類【商業実務分野】
(赤線枠は観光・宿泊、青線枠は小売)

⑥服飾・家政分野の取組状況

- 今回取り上げた取組は、民間企業が実施しているもので、大学・短大・専門学校の在学中の学生でも入学可。ただし、**一般学生だけでなく社会人向け**でもあり、週1日/3日通学も可能。
- 開発した最先端技術活用の教育プログラムを他地域に展開しており、また**プログラムで学習した内容を活かした新商品を開発し、商品化**するなど顕著な成果を創出。
- 単なる産学連携でなく、デザイン・3Dモデリング作成/生地素材・パターンデータ提供/PR・販売といった細かな役割分担に応じた**「産産学学連携」という新たな連携スタイル**を実践。

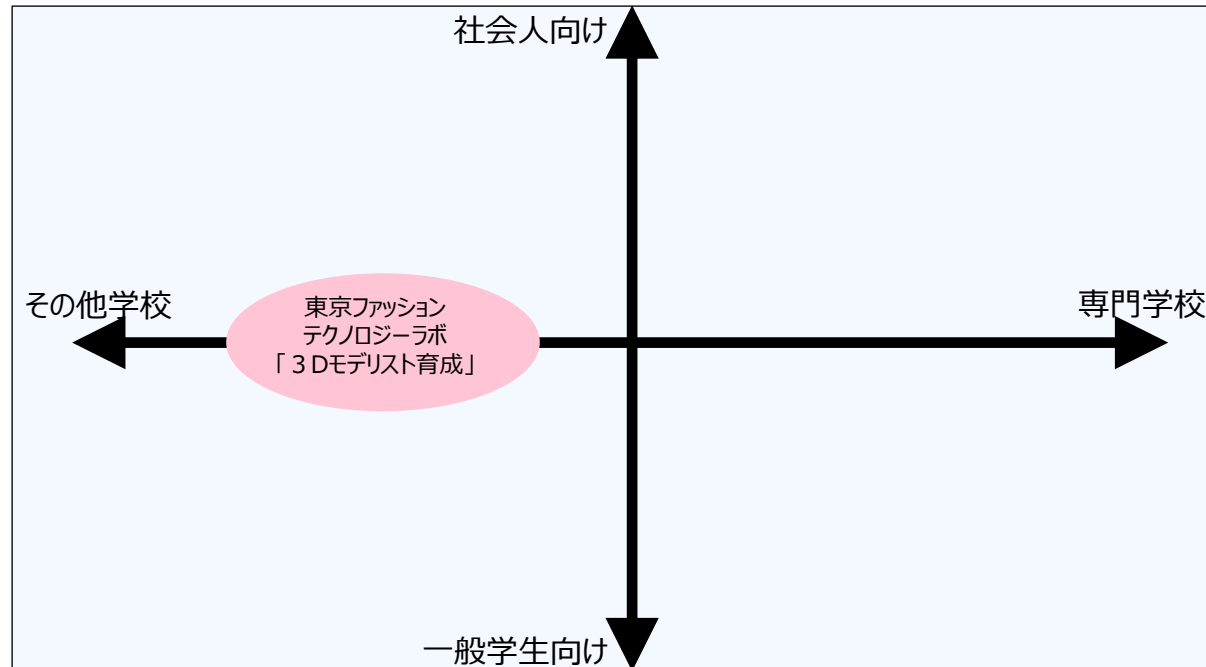


図 リカレント教育先進取組事例の分類【服飾分野】

⑦文化・教養分野の取組状況

- 今回取り上げた取組は、専門学校が実施しているもの。
- エンジニア不足という社会的ニーズに対応したものであり、卒業後は**多様なキャリアを選択**できることを強みとし、**受講生を集めている**。
- 連携状況については、eスポーツ施設やアリーナでの校外学習といった実践の場を確保するため、**eスポーツ運営会社との連携**もある。

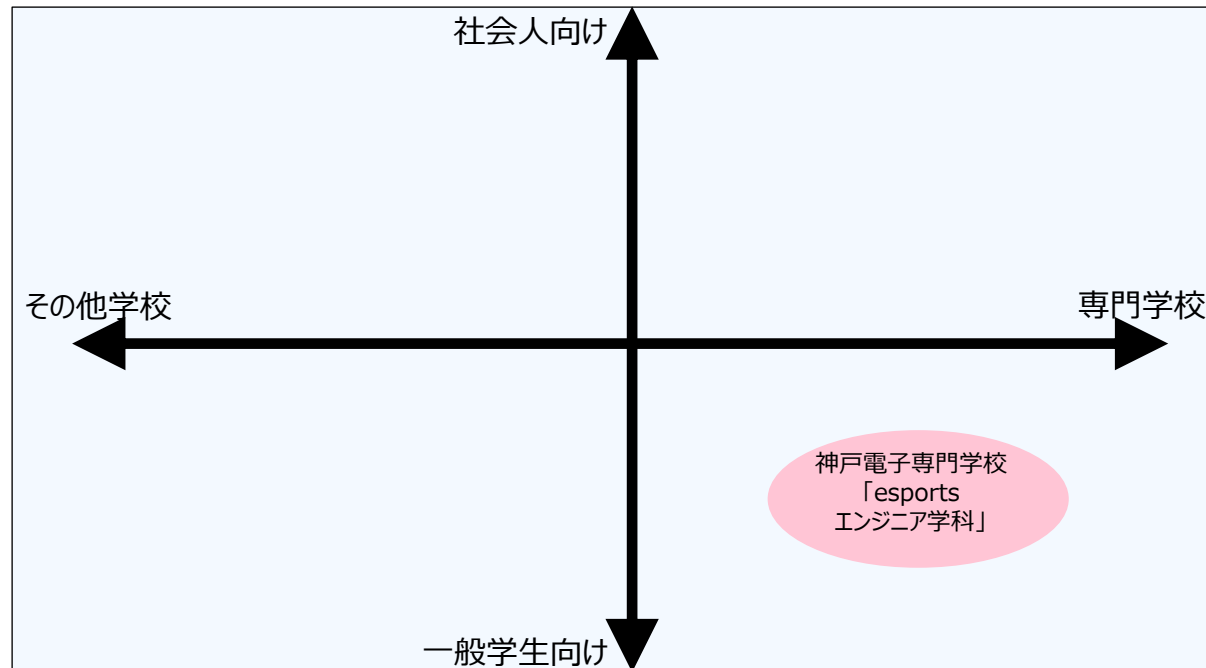
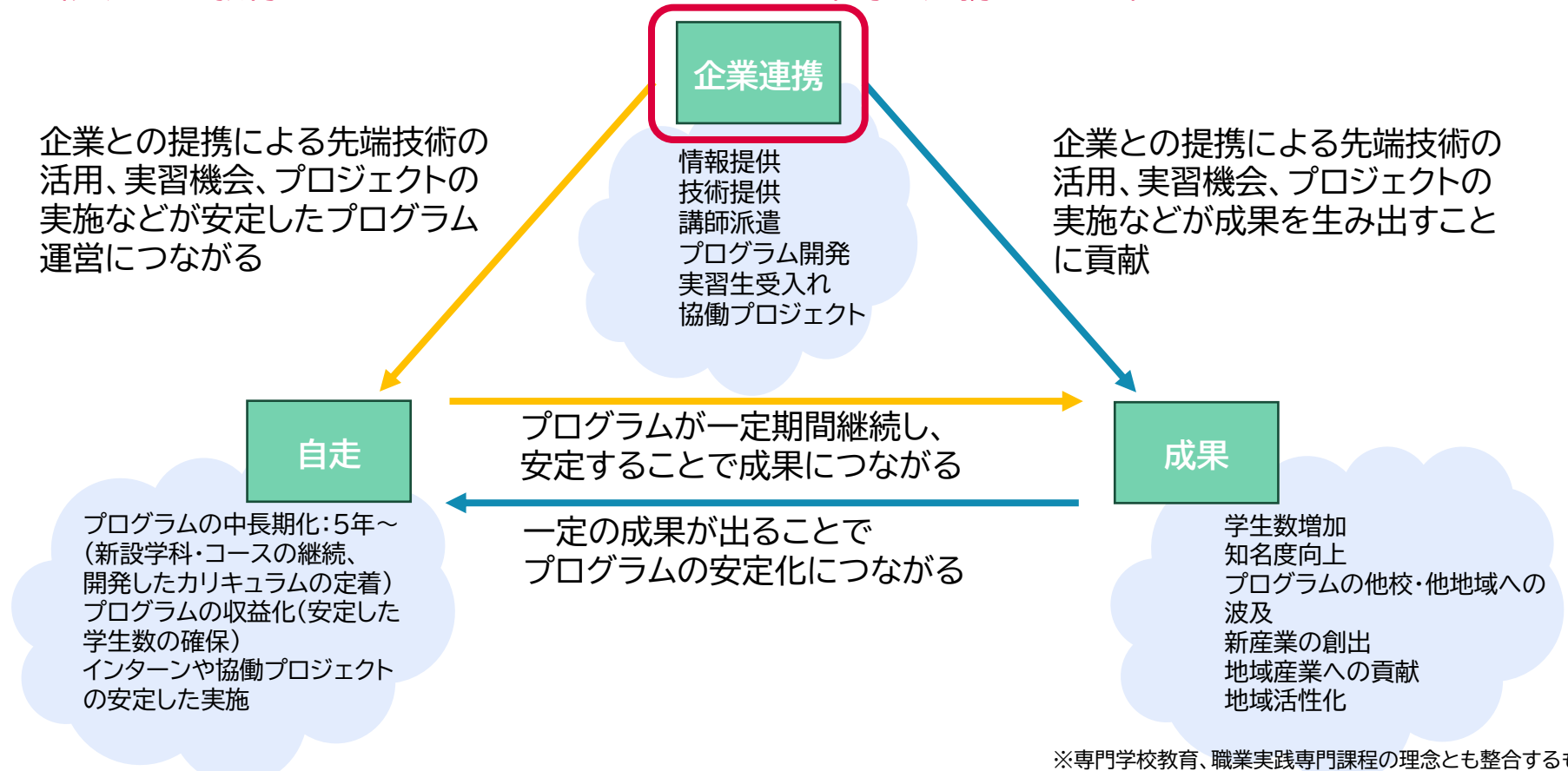


図 リカレント教育先進取組事例の分類【文化・教養分野】

先進的な教育プログラムを効果的なものにするための仕組み

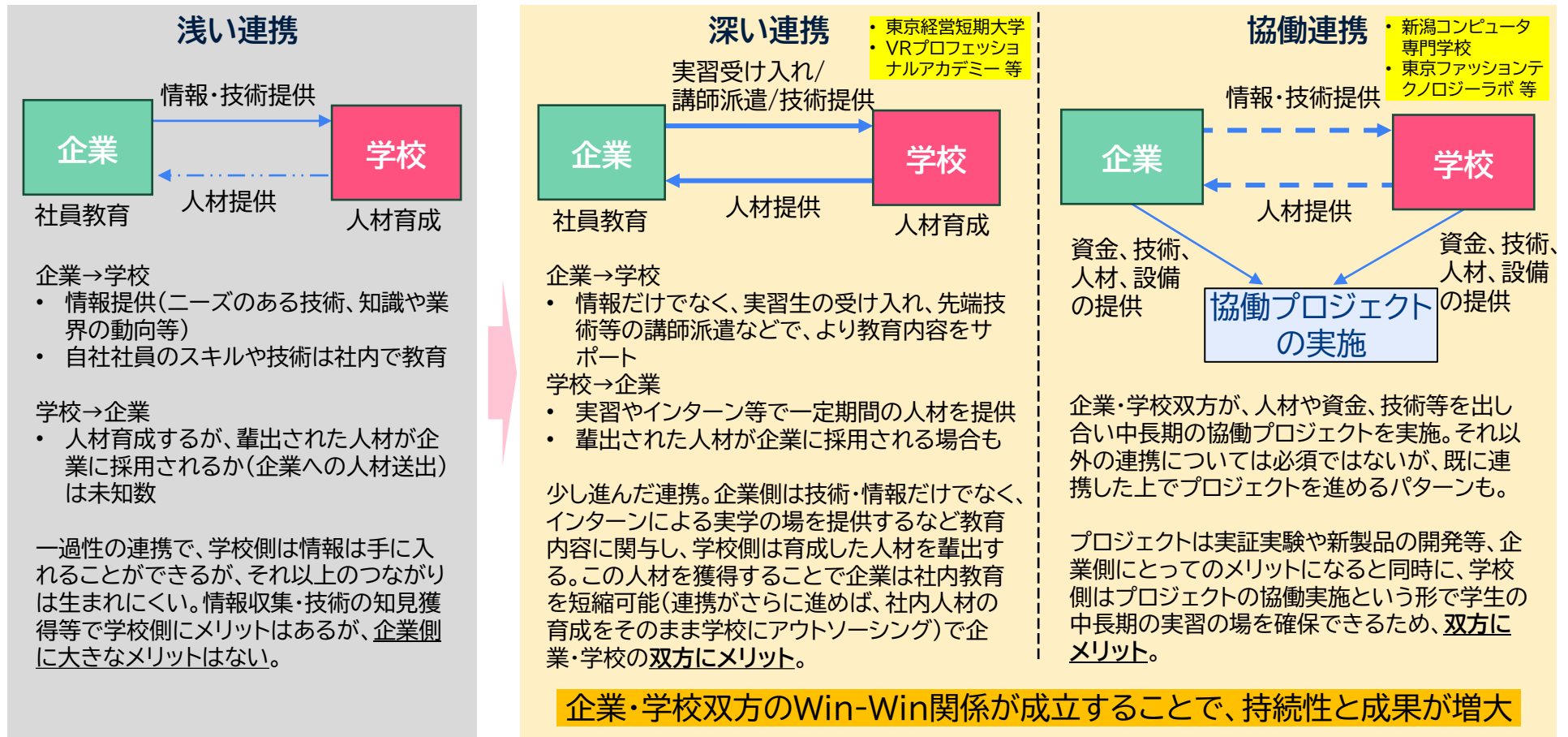
- 先進的な教育実践例から、企業連携、自走、成果という3要素は以下に整理できる(※)。
 - 企業連携がプログラムの自走につながり、成果をもたらす：オレンジ矢印
 - 企業連携によりプログラムが成果を出し、自走につながる：青矢印
- ➡ まずは企業連携をしっかりと行うことが、成果をもたらす自走につなげるための第一歩（先進的な教育プログラムにおいても、ほぼ全て企業等と連携している）



※専門学校教育、職業実践専門課程の理念とも整合するもの。

先進的な教育プログラムを効果的なものにするための仕組み

- 産業動向・ニーズから乖離しない教育内容を提供していく上で、企業連携は中核をなす要素。
- 企業連携にも様々な段階があるが、プログラムの運営においては、一過性の連携よりも**双方にメリットをもたらす連携**が望ましく、そうした**深い連携から成果**が生まれている。



類似分野の先進的な取組調査 参考情報(各取組一覧)

①工業分野(建設)

①工業分野(建設)

成果

自走

日本工学院北海道専門学校「BIM講座」(1/2)

木造建築から施工図までBIMフル活用のカリキュラムで複数課題に取り組んで即戦力を養い、地域のBIM革命を推進。BIMを学びたい高校生を惹きつけ同校への入学希望者数が増加しており、**プログラムの自走**を実現。

実施主体・所在地	学校法人片柳学園 日本工学院北海道専門学校(北海道登別市)
プログラム名・概要	BIM講座(建築学科) ✓ BIMをフル活用するBIM実践教育のカリキュラム(2018年～)
実施経緯・背景	✓ 現在世界では建築図面の作成がCADからBIMへ移行、日本でも大手企業が導入を開始 ✓ 建築学科の担当教員がBIMは建築の次代の主流になるとの旨を聞き、実際にBIMが使用されている建設現場を見学。授業への導入を決意し、2018年よりBIMを導入
教育内容詳細	✓ 1年次は建築の基礎と木造住宅の知識習得、JW-CADによる木造住宅の設計など2D CAD、3Dマイホームデザイナーなど木造住宅の3Dにも触れる ✓ 2年次から本格的なBIM講座が開始。ARCHITREND ZEROによる木造住宅のBIM、GLOOBEによる鉄筋コンクリート建築のBIM、J-BIM施工図CADを用いたBIMによる施工図制作まで行う。BIMに関する授業は2年前期で週6時間、後期は施工図のBIM講座が3時間加わった計9時間 ✓ ARCHITREND VRやGLOOBE VRなどのVR製品と3Dプリンターも導入、ARCHITREND ZEROで作った住宅のモデルやGLOOBEで作った美術館のモデルをVRで確認するといった取組も実施。3DプリンターはGLOOBEのモデルを出力し、建築模型の作成を取り入れることを検討中
教育プログラムの特徴	✓ BIMソフトを用いる学校も増えてきたものの、BIMで施工図制作を行う専門学校は少数 ✓ BIMで施工図制作まで行うことで、施工図による品質管理、施工図作成の能力が求められる 現場での即戦力を養成可能 に ✓ 授業ではVRとBIMを連携し活用することで、構造設計の立体的な理解、建具や家具の大きさ、配置による導線・間取りのシミュレーション、インテリアのデザイン・カラーコーディネートなど多様な体験を実現
連携先	✓ 不明
成果・期待効果	✓ BIMの使用によって速く精度の高い作図が可能となった。そのため、2D CADでは半年で1つの課題に取り組んでいたが、BIMでは学生会館や美術館といった大きな課題を2つ、事務所建築1つと 3課題に取り組める ようになった ✓ 学生たちのBIMへの関心は高く、BIM導入後は放課後の自主的な学習が活発になった他、簡単にアイデアをビジュアル化できるBIMを体験し、その面白さから BIMを学びたいという動機で入学を希望する高校生も増加 している ✓ 地場の建築業界では施工分野にBIMがあまり普及していない。BIMスキルを身に付けた同校の卒業生が現場に出ることで、地域の建築現場でのBIM普及を後押しすることが期待される
出所	✓ 日本工学院北海道専門学校、建築学科HP、 https://www.nkhs.ac.jp/dept/arch/ (2023年11月16日閲覧) ✓ STYLE LAB、「ARCHITREND ZERO、GLOOBE、J-BIM施工図CADで木造&鉄筋コンクリート造のBIMをトータルに教育」、 https://archi.fukuicompu.co.jp/architectstylelab/info/108 (2023年11月16日閲覧)

①工業分野(建設)

日本工学院北海道専門学校「BIM講座」(2/2)

- ・BIMとVRを組み合わせBIMによる設計作品をVRで確認するなど多様な先端技術を活用するカリキュラム
- ・BIMを取り入れている他の専門学校では基礎や設計に留まり、施工図の作成には至らない
- ・実践的なBIMの応用として、各学生が考案した大型建築をGLOOBEで設計、J-BIM施工図CADと連携させて現場で必要となる施工図の制作を行う

■ BIM講座カリキュラム



出所:日本工学院北海道専門学校 建築学科HP

■ 学生設計「美術館」のパース図と施工

避難施設兼用校友会館



出所:日本工学院北海道専門学校 建築学科HP

出所)日本工学院北海道専門学校、建築学科HP、<https://www.nkhs.ac.jp/dept/arch/> (2023年11月16日閲覧)、STYLE LAB、「ARCHITREND ZERO、GLOOBE、J-BIM施工図CADで木造&鉄筋コンクリート造のBIMをトータルに教育」、<https://archi.fukuicomp.co.jp/architectstylelab/info/108> (2023年11月16日閲覧)

①工業分野(建設)

明石工業高等専門学校

「建設DXをけん引する次世代型エンジニア育成事業」(1/2) 企業連携

データサイエンスからドローンまで、測量・設計・施工・維持管理の建設DXをけん引する次世代型エンジニアを育成。行政やシステム会社とも連携し、**伴走型支援**といった質の高い教育の提供で、**受講生の確保**につなげている。

実施主体・所在地	明石工業高等専門学校(兵庫県明石市)
プログラム名・概要	建設DXをけん引する次世代型エンジニア育成事業(都市システム工学科・電気情報工学科) <ul style="list-style-type: none"> ✓ 実験・実習のカリキュラムを高度化し建設DXをけん引するDX人材「次世代エンジニア」の育成を図る(2022年度～)
実施経緯・背景	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 建設産業は生産性向上や効率化が進んでいない。省力化、効率化、生産性向上のためにはDX推進のできる人材が必要 ✓ 文科省令和4年度「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」に採択 ✓ 都市システム工学科と電気情報工学科による共同申請・実施
教育内容詳細	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 電気情報工学科が自学科の実験・実習のDX化と合わせて、都市システム工学科の実験・実習のカリキュラムのDX化を支援 ✓ 以下のプログラムを実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ データサイエンティストの能力養成:全学必修科目「データサイエンス入門、演習」 ・ データサイエンティストの能力を備えた建設エンジニアの育成:測量系科目(電子平板と連動したトータルステーション・3Dスキャナー、ドローン活用のデジタル測量)、設計系科目(3DCADとCIMによる設計演習)、施工系科目(センサー搭載自律制御型建設重機、ドローン測量、建設3Dプリンターの導入) ・ 実験実習施設へのDX建設施工現場の再現:「インフラ総合実験棟」でICT施工を実現する、最先端の実験実習環境 ✓ 併せて、企業などの教育アドバイザーによる伴走型支援も実施する
教育プログラムの特徴	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 測量実習や工学実験、社会基盤メンテナンス、卒業研究などの実習系科目にDX教材や技術を取り入れ、学生自らが現場でDXを活用できる教育カリキュラム ✓ 都市システム工学科の取組を電気情報工学科が支援するという学内の協力体制を敷いた上で、DXスキルとして基盤となるカリキュラムは、機械工学科、建築学科へも展開し、全学実験実習のDX化を視野に入れている ✓ カリキュラムや教材の展開・共有を図り、他高専生向けに授業公開・単位化を目指す他、地域の企業や社会人、明石高専職員など、大人の学び直しやスキルアップにも活用する
連携先	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 初中等教育支援として「STEAM教育実践モデル校事業」を実践する兵庫県教育委員会や明石市、Construction DX Solutions
成果・期待効果	<ul style="list-style-type: none"> ✓ カリキュラムや教材の展開・共有は、他高専や自校の職員、地域の企業・成人の学び直しやスキルアップも対象としており、地域の産業全体のDX人材育成にも貢献しうる
出所	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 明石工業高等専門学校、「建設DX人材育成事業」、https://www.akashi.ac.jp/education-and-research/kensetsudx.html(2023年11月16日閲覧) ✓ Construction DX Solution「【事例紹介】建設DXをけん引する次世代型エンジニア育成事業に関する」、https://constdx.com/akashi/(2023年11月16日閲覧)

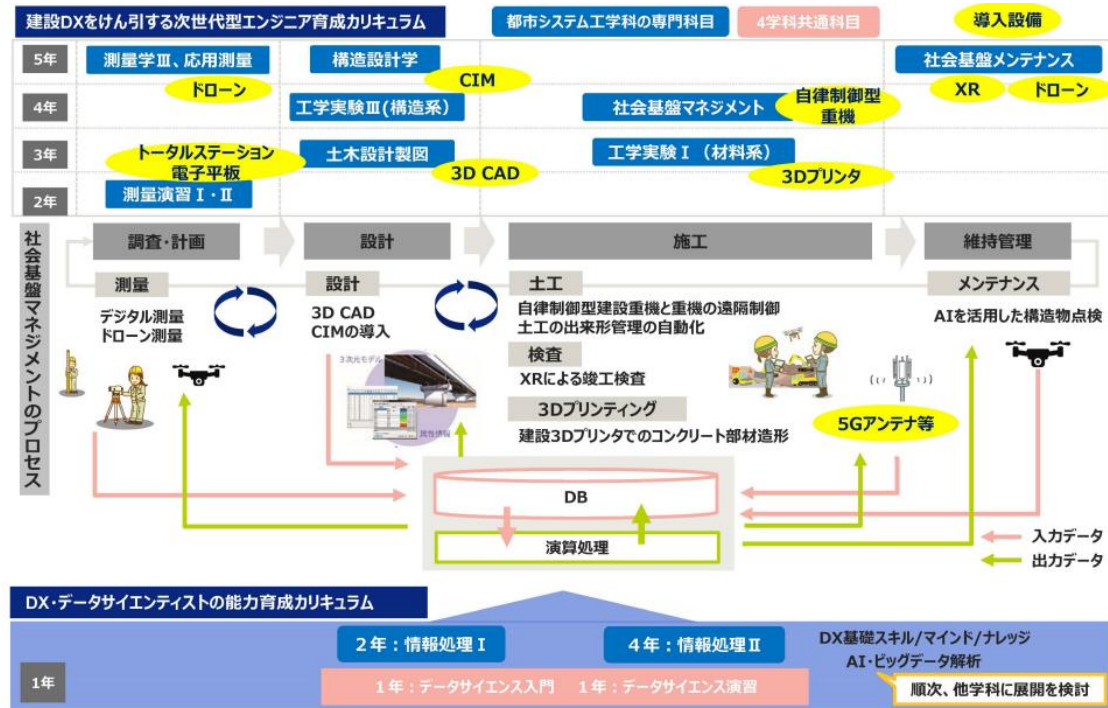
①工業分野(建設)

明石工業高等専門学校

「建設DXをけん引する次世代型エンジニア育成事業」(2/2)

- ・都市システム工学科の専門科目において社会基盤マネジメントの調査・計画、設計、施工、維持管理の各プロセスで先端技術を導入
- ・全学を対象にDX・データサイエンティスト能力育成カリキュラムを実施、DX基礎スキル、AI・ビッグデータ解析を学ぶ

■ 高度化されるカリキュラムの全体像



導入機器・設備

調査・計画(測量)	ドローン測量、トータルステーション電子平板
設計	3D CAD、CIM
施工	自律制御型建設重機と重機の遠隔制御、土工の出来形管理の自動化 XRによる施工検査 3Dプリンターでのコンクリート部材造形
維持管理	AIを活用した構造物点検、ドローン

明石工業高等専門学校HPよりMRIが作成

出所:明石工業高等専門学校 建設DXをけん引する次世代型エンジニア育成の取り組み

①工業分野(情報通信)

岡山情報ビジネス学院「データマーケター養成講座」(1/3)

業界団体で開発されたプログラムを自校でも用いて、ビッグデータを分析してマーケティングに活用。企画・提案力で地域経済に貢献する「データマーケター」を養成。**一般学生だけでなく社会人向けにも提供可能性**がある。

実施主体・所在地	専門学校岡山情報ビジネス学院(岡山県岡山市)
プログラム名・概要	データマーケター養成講座(データマーケター学科) ✓ 分析されたビッグデータを活用し、ビジネスを企画するデータマーケターを育成する(2020年度～)
実施経緯・背景	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ビッグデータを活用できる人材が求められているが、ビッグデータに関わる教育はデータサイエンティストの育成が中心で、ビッグデータを活用してマーケティングを行う人材が不足 ✓ データを活用するビジネスの実務者「データマーケティング人材」育成を目的に、一般社団法人ビッグデータマーケティング教育推進協会が全国の専門学校等約50校と連携して「データマーケター養成講座」を開発 ✓ 同校も2020年度から参画し、データマーケター学科においてデータマーケター養成講座を実施
教育内容詳細	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「データマーケター養成講座初級編」は、データマーケティングの基礎から実際のビッグデータを分析する演習まで、90分授業30コマ ✓ 「初級編」では企業向け研修プログラムとして開発された「データマーケター養成講座」をベースに、学生がデータマーケティングに興味を持つよう、身近な日用品のビッグデータを使用した演習を多く取り入れている ✓ 商品の購入時間、購入曜日、平均価格 と市場シェアの推移などが表示される「ウレコン」、全国6,000万人規模のID-POSデータを分析・資料作成までサポートする、市場データの分析支援システム「Dolphin Eye」などのデータ分析ツールを活用 ✓ グループワークでは実際の店舗の状況を調査し、学生が地域の経済に目を向ける機会が設けられている
教育プログラムの特徴	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 県内初のデータマーケター育成学科。自校でプログラムを開発するのではなく、他組織・他校と連携し開発された業界ニーズの高い先端プログラムを自校の授業に活用 ✓ 実際の企業のビッグデータを利用した実践的な学習が可能 ✓ 当該校では学生向けの初級編を提供しているが、元々のプログラムは企業研修向けであり、ビッグデータの分析・活用スキルを身につけたい社会人向けのプログラムとしても利用価値が高い
連携先	✓ 一般社団法人ビッグデータマーケティング教育推進協会
成果・期待効果	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 今年度の授業実施校は17校(全国)で、約550名(全国)が受講 ✓ 全国でデータマーケター養成講座を学ぶ専門学校生による企画をプレゼン発表する「データマーケター養成講座成果発表会」が開催され、2022年度は当該校が1, 2位、2023年度は2位と3位を受賞 ✓ データマーケター卒業生の進学先はオージー技研(株)、(株)天満屋、シモハナ物流(株)、富士フィルムビジネスイノベーション(株)等
出所	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 一般社団法人ビッグデータマーケティング教育推進協会プレスリリース、「地域経済活性化のための「データマーケティング人材」育成を開始」、https://jp-dream.or.jp/2020/06/24/press-release%EF%BC%9A%E5%9C%B0%E5%9F%9F%E7%B5%8C%E6%B8%88%E6%B4%BB%E6%80%A7%E5%8C%96%E3%81%AE%E3%80%8C%E3%83%87%E3%83%BC%E3%82%BF%E3%83%9E%E3%83%BC%E3%82%B1%E3%83%86/(2023年12月19日閲覧) ✓ 岡山情報ビジネス学院、「データマーケター学科」、https://www.oic-ok.ac.jp/course/it/(2023年12月19日閲覧)

岡山情報ビジネス学院「データマーケター養成講座」(2/3)

- ・「データマーケター養成講座」はデータマーケター学科のカリキュラムの中に組み込まれている
- ・学科のカリキュラムは多様な情報をビジネスにつなげる知識とスキルの習得、実践的な学びによる提案力のある人材の育成が目指されている

■ データマーケター学科カリキュラム

● コンピュータアーキテクチャ	● ITサポート対策	● Excel実習	● Word実習	● PowerPoint実習
● Access実習	● データ分析概論	● ビジネスプランニング	● マーケティング概論	● データ分析演習
● プレゼンテーション実習	● ビジネスリテラシー	● ビジネス法務	● 情報リテラシー	● 簿記会計
● ビジネス実務	● キャリア実習	● 統計学	● SDGs	● 社会調査
● ペン字	● 卒業研究			

出所:岡山情報ビジネス学院公式HP

データマーケター養成講座初級カリキュラム

第1回	オリエンテーション	第11回	POSデータ③	第21回	ID-POSデータ④
第2回	ビッグデータとは	第12回	フィールドワークの発表	第22回	実習④
第3回	データ活用	第13回	実習②	第23回	外部データの利用
第4回	EXCELハンズオン① グラフの作成	第14回	実習③	第24回	外部データの利用②
第5回	実習①	第15回	科目試験	第25回	実習⑤
第6回	EXCELハンズオン② 散布図と関数	第16回	マーケティングの基礎①	第26回	マーケティングの基礎③
第7回	企画提案のための思考法	第17回	ID-POSデータ①	第27回	課題発見と提案①
第8回	データ活用と各業界	第18回	ID-POSデータ②	第28回	課題発見と提案②
第9回	POSデータ①	第19回	ID-POSデータ③	第29回	課題発見と提案③
第10回	POSデータ②	第20回	マーケティングの基礎②	第30回	科目試験

一般社団法人 ビッグデータマーケティング教育推進協会提供資料よりMRIが作成

出所)一般社団法人 ビッグデータマーケティング教育推進協会提供資料 ©2019 Data driven Regional Education Association for Marketing © 2019 True Data Inc. All Rights Reserved、岡山情報ビジネス学院、「データマーケター学科」、<https://www.oic-ok.ac.jp/course/it/>(2023年12月19日閲覧)

①工業分野(情報通信)

岡山情報ビジネス学院「データマーケター養成講座」(3/3)

- データ活用や実習には、データ閲覧サービス「ウレコン」、市場データの分析支援システム「Dolphin Eye」を利用
- ウレコンでは商品の購入時間、購入曜日、平均価格と市場シェアの推移データ、Dolphin Eyeでは化粧品、菓子類など、小売店で販売される全500カテゴリの全国6000万人規模のID-POSデータにアクセスし、学習に活かすことができる

■ データ閲覧サービス「ウレコン」イメージ



出所：一般社団法人 ビッグデータマーケティング教育推進協会提供資料

■ 市場データの分析支援システム「Dolphin Eye」イメージ



①工業分野(情報通信)

新潟コンピュータ専門学校(NCC)

「5G時代の新たな産業創出に向けた産学官の取組」(1/2)

企業連携

新潟市×ドコモ×新潟大学×NCCの産学連携で実証実験を行い、5G活用の新産業創出を目指す。NCCは5G人材育成を担い、AIシステム科でドコモと連携して5G実習等を実施し、5G関連新サービスのアイデア創出を促進。

実施主体・所在地	学校法人国際総合学園 新潟コンピュータ専門学校(NCC)(新潟県新潟市)
プログラム名・概要	5G時代の新たな産業創出に向けた産学官の取組(5Gコース) <ul style="list-style-type: none"> ✓ 新潟市の「5Gビジネスラボ」を拠点に、NTTドコモ・新潟大学・NCCが連携し、5Gビジネスの活性化・人材の育成を図る(2021年～)
実施経緯・背景	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 2021年、新潟市の課題である「若年層を中心とした都心部への人口流出」、「地域経済の発展」に取り組むため、新潟市、NTTドコモ、新潟大学、新潟コンピュータ専門学校が、5G等先進技術の分野で産学官が相互に協力する体制を作ることによって、新たな地場産業創出につながる取組を促進するための連携協定を締結 ✓ 併せて、NCCは協定締結の2021年4月よりAIシステム科に5Gコース(2年制)、5G応用コース(3年制)を新設
教育内容詳細	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 連携では5G等を活用した産業創出、人材育成及び技術支援を実施 <ul style="list-style-type: none"> • 産業創出:5Gビジネス創出のため、市内外の企業が参加する「DXプラットフォーム」と連携し、5Gビジネスの活性化を図る。「5Gビジネスラボ」を設立、5Gの体験・実証実験を推進 • 人材育成:次世代産業の担い手を啓発するために、「5G講演会&体験会」を開催 • 技術支援:継続的な発展をめざして、5Gの次を見据えた「Beyond5Gの研究」を促進、新潟大学とドコモのR&D部門が連携して共同研究を実施 ✓ NCCも5G人材育成及び5Gコンテンツの実証実験に参画 ✓ NCCのAIシステム科5Gコースの教育内容は、ネットワークセキュリティ・クラウドコンピューティング、5Gを活用したIoT開発、ロボット制作、ドコモから5Gに関連する最新の知識・技術を学ぶ5G実習等
教育プログラムの特徴	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ドコモとの連携により、学内に5G環境を整備。5Gのネットワーク環境下において、5Gを活用した次世代のICT教育カリキュラムの構築を検証する実証を実施 ✓ 校内に5G環境を整備し、IoT技術開発など、各種技術の実証を行う授業展開は全国初(2021年6月時点)
連携先	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 新潟市、(株)NTTドコモ、新潟大学
成果・期待効果	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 産学官が相互に協力する体制を作ることによって、新たな地場産業創出につながる取組を促進し、地域社会の発展に寄与 ✓ 5G人材の育成により、5G活用による新産業創出による地域振興、及びその新産業をけん引する人材を輩出 ✓ 5Gは医療、農業、教育、エンタメ、ゲーム、スポーツと活用の可能性は大きく、輩出する5G人材が幅広い産業で活躍することを期待
出所	<ul style="list-style-type: none"> ✓ NTTドコモ、「新潟市・ドコモ・新潟大学・新潟コンピュータ専門学校が「5G時代の新たな産業創出に向けた産学官の取組み」に関する連携協定を締結」、https://www.docomo.ne.jp/info/news.release/2021/04/09.00.html(2023年11月29日閲覧) ✓ PRTIMES、「NSGグループとドコモが5GやAI、XR技術などの活用による新たなICT教育の促進に向けた協業に合意」、https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000490.000032951.html(2023年11月30日閲覧) ✓ 新潟コンピュータ専門学校「AIシステム科」、https://www.ncc-net.ac.jp/department/ai-system(2023年11月30日閲覧)

①工業分野(情報通信)

新潟コンピュータ専門学校(NCC)

「5G時代の新たな産業創出に向けた産学官の取組」(2/2)

- ・連携の実施体制において、NCCは5Gコンテンツの実証実験と5G人材の育成を担う
- ・新潟市とドコモとの連携で、5Gに接続し映像系を中心としたコンテンツを動作させる「5G実証実験」を実施

■ 連携協定の取組イメージと各者の役割

■ 5G実証実験の様子



出所:NTTドコモプレスリリース

新潟市	5Gビジネスラボの提供 DXプラットフォームの運営
NTTドコモ	5G実証実験の支援 5G、Beyond5Gに関する技術支援
新潟大学	Beyond5Gの研究 5G人材育成
NCC	5Gコンテンツの実証実験 5G人材育成

NTTドコモプレスリリースよりMRIが作成



出所:新潟コンピュータ専門学校HP

出所)NTTドコモ、「新潟市・ドコモ・新潟大学・新潟コンピュータ専門学校が「5G時代の新たな産業創出に向けた産学官の取組み」に関する連携協定を締結」

https://www.docomo.ne.jp/info/news_release/2021/04/09_00.html (2023年11月29日閲覧)、新潟コンピュータ専門学校、「NCC×NTTドコモ新潟支店×新潟市で、5G実証実験を行いました」、<https://www.ncc-net.ac.jp/blog/pickup/23947>、(2023年11月29日閲覧)

①工業分野(情報通信)

VRプロフェッショナルアカデミー 「XRベーシックコース」(1/2)

自走

企業連携

プログラミング未経験者でも学校・仕事との両立を前提としたプログラムでVRアプリ開発の基礎を習得、VR人材としてスキルアップが可能。**業界の先進企業と連携して講師陣を確保し、これまで800名以上の受講生を輩出。**

実施主体・所在地	VRプロフェッショナルアカデミー(東京都新宿区)
プログラム名・概要	XRベーシックコース ✓ プログラミング未経験者やUnity初心者を対象としたVR・ARアプリ開発の基礎技術を学ぶ5か月間の基礎コース(2017年～)
実施経緯・背景	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 各産業や企業は、生産性の向上につながるICT化を加速するための即戦力人材を求めている ✓ VRやAIの普及により、ITエンジニア不足が見込まれており、即戦力エンジニアの育成が急務。大企業だけでなく、特に人材難で苦しみ中小企業へのITエンジニアの供給と育成は必須なことから、ITエンジニア育成のためのエコ・システムを構築すべく新しい教育機関として、即戦力のVRエンジニアを育成するプロフェッショナルスクールを設立
教育内容詳細	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 3Dシューティングゲーム制作、対戦ゲーム制作等を通じて、VRアプリ開発の基礎技術を学ぶコース ✓ 5か月間のコースを通じUnityの基本操作からC#プログラミング、最新のVRゴーグルMetaQuest3を利用した最新VR・MRアプリ開発の制作ワークフローを学習 ✓ VR・AR開発の世界的スタンダードツールUnityの学習では、Unityエディタの操作と各種機能の理解、Unityコンポーネントの各種機能理解、C#スクリプトの基本コーディングスキルを習得。また、Unity公式の認定資格も取得 ✓ VR・ARアプリ開発ワークフローでは、基本的開発スキルの習得としてVR・ARアプリ開発方法の学習、オリジナル教材でVR・ARコンテンツ制作、Apple Vision Proを想定した最新MR開発を実施 ✓ 学習のアウトプットのためのイベントとして、VR・ARアプリのチーム開発競争「ハッカソン」、制作したオリジナルVR・ARアプリを一般の人に体験してもらう修了制作作品発表会「VRフェス」がある
教育プログラムの特徴	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 東京都DXリスクリリング助成金対象コース。都内中小企業の従業員が受講する場合、受講料の最大2/3が助成 ✓ プログラミング、Unity未経験者を対象に、入学前オンライン学習教材を用意。未経験者から初心者へとステータスを引き上げる ✓ 初心者向けに講師やTAによるつまづき易いポイントには手厚いサポートを提供 ✓ 授業は毎週土曜 15:00～18:00 (3時間)、全21回。スクーリング対面授業・オンライン受講が選択できるハイブリット形式で、仕事・学校との両立を前提とした時間設定になっている。受講料は社会人24万8千円、学生は19万8千円
連携先	✓ XR業界の 先進企業と連携し、講師陣はすべてXR開発企業の現役エンジニア 。また企業研修も実施しており、講座を受講した企業は、パイオニア(株)、ダイキン工業(株)、(株)野村総合研究所、(株)日立システムズなど多数
成果・期待効果	✓ 2017年の開校以降 800名以上 のVRエンジニアを輩出。卒業生は様々なXR企業現場でエンジニアとして活躍するなどXR界の人材育成に貢献
出所	✓ VRプロフェッショナルアカデミー、XRベーシックコース、 https://vracademy.jp/course/xrbasic/ (2023年12月22日閲覧)

①工業分野(情報通信)

VRプロフェッショナルアカデミー 「XRベーシックコース」(2/2)

- ・最新のVR・AR開発スキルを基礎から学びたいプログラミング未経験者・Unity初心者向けの5か月間のコース
- ・入学前の事前学習、Unityの基礎からVRアプリ、ARアプリの開発、アプリ開発イベントのアウトプットとVR・AR開発スキルを効果的・体系的に習得するプログラム

■ 学習の流れ



出所:VRプロフェッショナルアカデミーHPよりMRIが作成

出所) VRプロフェッショナルアカデミー、XRベーシックコース、<https://vracademy.jp/course/xrbasic/>、(2023年12月22日閲覧)

①工業分野(自動車整備)

①工業分野(自動車整備)

日本工科大学校

「次代を担う自動車整備士DX人材養成プログラム」(1/2)

企業連携

自動車産業DX/ディーラーDXに関して必要なデジタル・リテラシー、スキルを特定し、動画教材を制作。**地元の学生を就職させたい地域の販売会社数社が参画**し、DX推進に関する提案・助言を受け、教材を開発。

実施主体・所在地	学校法人誠和学院 専門学校日本工科大学校(兵庫県姫路市)
プログラム名・概要	次代を担う自動車整備士DX人材養成プログラムの開発(自動車学部) ✓ 「自動車産業DX」と「ディーラーDX」のためのデジタルコンテンツ教材プログラムを開発(2022年度～)
実施経緯・背景	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 自動車産業は、「CASE」(コネクティッドサービス、自動運転、シェアリングサービス、電気自動車)とDXを推進。またディーラーも、独自にDX化に取り組み、自動車整備士の仕事の平準化や効率的・効果的な接客を推進するなどの業務改善を進めている ✓ DX推進のためには、デジタル技術やデジタル活用による自動車産業の進展に精通するとともに、ビジネスモデルに変革をもたらす挑戦力と問題解決力を備えた人材が求められている
教育内容詳細	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 事業は令和4～6年の3年間。デジタルコンテンツの教材を開発 ✓ 「自動車産業DX」では、デジタル教材「ITS及び自動運転の基本」、「先進安全運転支援システムの概要」、「自動運転の仕組み」、「DXにより変わっていく自動車産業の近未来」、「自動運転の仕組みとAI技術」、「自動運転走行支援システムと自動車整備士の役割」の教材を制作 ✓ 「ディーラーDX」では、調査によって求められるデジタル・リテラシーとスキルを明確にし教材を制作。4本の教材が公開済み。タイトルは「タブレットを使用した整備作業の説明」、「ナンバープレート認識システム」、「修理所のPC化」、「整備士作業管理システム」 ✓ 哲学的対話教育とは問いを立て、考え、対話することを通して他者の意見を尊重しながら協働して問題を探求し、批判的思考力、創造的・自律的思考力、ケア的思考力を育成することを目的とする教育。DX推進のために哲学的対話教育が有効という仮説の下で、哲学的対話教育の教育コンテンツも作成。今年度は「哲学的対話教育」という動画コンテンツを作成し、HPで公開
教育プログラムの特徴	<ul style="list-style-type: none"> ✓ DX人材の育成のため、「自動車産業DX」と「ディーラーDX」に分けて、各々に必要なデジタル・リテラシー、スキルを特定し、動画教材を制作することで、自動車産業全体のDX化に必要なスキルを網羅的に習得 ✓ 哲学対話教育の手法を取り入れ、DXを推進する基盤となるビジネス変革に向かう感性、協働して問題を探求し、批判的思考力、創造的・自律的思考力などを育むことで、DXを自ら推進できる人材を育成
連携先	✓ DX提案・助言を行うプログラム開発委員や教材開発部会に、トヨタカローラ姫路(株)を始めとする 地域の販売会社数社が参画
成果・期待効果	✓ DXの知識だけでなく、自らDXをけん引する人材を育成することで、卒業生の就職先として想定される地域の自動車販売会社など、地域の産業全体のDX化に寄与
出所	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 出所)Nikkei Business Publications、「次代を担う自動車整備士DX人材養成プログラムの開発」、https://project.nikkeibp.co.jp/bpi/seminar/19/dmext2022/jirei/seigaku/(2023年11月20日閲覧) ✓ 令和4年度 文部科学省委託事業次代を担う自動車整備士DX人材養成プログラム開発事業https://jec-dx.doubles.jp/2022.html(2023年11月20日閲覧)。日本工科大学校、「成果報告書」、https://jec-dx.doubles.jp/assets/pdf/2023report.pdf(2023年11月20日閲覧)

①工業分野(自動車整備)

日本工科大学校

「次代を担う自動車整備士DX人材養成プログラム」(2/2)

- ・開発されるプログラムは1級自動車学科3年次の新科目「DX実践」として組み込まれる
- ・動画教材は自動車産業DX、ディーラーDXの他、哲学対話教育、自動車産業の未来、総合的DX評価。自動車産業DXではITSや先進安全システム、自動運転などについて学び、哲学的対話教育で変革をもたらす問題解決能力を育む

■ カリキュラムの位置づけと科目内容

教育カリキュラム(一級自動車学科3年次)

単元名	総時数	学科時数	実習時数
自動車の力学・数学	18	18	0
電気・電子理論	24	24	0
燃焼・潤滑剤・材料・図面	11	11	0
機器の構造・取扱	15	15	0
エンジン	234	48	186
シャシ	238	50	188
電装	248	48	200
故障原因探求	37	37	0
総合診断・環境保全・安全管理	48	48	0
自動車検査	31	11	20
自動車に関する法規	13	13	0
自動車概論	25	25	0
サービスマネージメント	75	35	40
工作作業	24	0	24
応用計測	20	0	20
実務実習	8	0	8
DX実践	47	47	0
:合計	1,116	430	686

※1時数は50分。学科は演習を含む。

出所:日本工科大学校「成果報告書」

科目構成

一級自動車工学科の3年次カリキュラムに新科目として「DX実践」を設置する(指導時数47コマ→1コマ50分)

科目概要

「ITS・自動運転探求」(7コマ)、「実践的デジタルリテラシー」(26コマ)、「哲学対話」(14コマ)の3単元で構成する

成果報告書よりMRIが作成

出所)令和4年度 文部科学省委託事業次代を担う自動車整備士DX人材養成プログラム開発事業<https://jec-dx.doubles.jp/2022.html> (2023年11月20日閲覧)、日本工科大学校、「成果報告書」、<https://jec-dx.doubles.jp/assets/pdf/2023report.pdf> (2023年11月20日閲覧)

■ 開発された動画コンテンツ

□自動車産業DX推進動画コンテンツ

ITSの基本と次世代のITS ▶ 先進安全システムの概要① ▶ 先進安全システムの概要② ▶ 自動運転① ▶ 自動運転② ▶

□ディーラーDXの推進動画コンテンツ

タブレットを使用した整備作業の説明 ▶ ナンバープレート認識システム ▶ 修理書のPC化 ▶ 整備士作業管理システム ▶

□哲学対話教育動画コンテンツ □自動車産業の未来動画コンテンツ

哲学対話教育 ▶ 自動車産業の未来 ▶

□総合的DX評価動画コンテンツ

総合的DX評価 ▶

出所:次代を担う自動車整備士DX人材養成プログラム開発事業

①工業分野(自動車整備)

日本工科大学校

「钣金・塗装技術習得のための遠隔教育」(1/2)

企業連携

AR、CGなど先端技術を活用した教材、ゲーミフィケーションによるトレーニングの遠隔教育で、**対面実習以上のスキルを習得可能**に。受講時間のハードルを下げ、**多忙な社会人の受講獲得も企図**。

実施主体・所在地	学校法人誠和学院 専門学校日本工科大学校(兵庫県姫路市)
プログラム名・概要	钣金・塗装技術習得のための遠隔教育実践モデル事業(自動車学部) ✓ AR、VR等の先端技術を活用した対面実習と同等以上の教育レベルを確保できる実習代替コンテンツを制作(2021年度～)
実施経緯・背景	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 令和3年度 文部科学省「専修学校における先端技術利活用実証研究」を受託 ✓ 車体整備士養成課程ではカリキュラムの3/4が実習で構成。オンラインによる遠隔教育では対面授業に比べ理解を深めることが難しく、実習を代替不可 ✓ オンラインでは、対話型の授業がシステムの難し、教師の効率性を重視した姿勢も相まって、主体的な学びが制約。また遠隔教育での形成的評価の方法が確立されていないため、単線型の画一的な授業に陥ってしまう
教育内容詳細	<ul style="list-style-type: none"> ✓ AR、VR等の先端技術を活用し、対面実習と同等以上の教育レベルを確保できる実習代替教材を制作 ✓ 制作するのは実習代替コンテンツに加え、ゲーミフィケーションを用いた形成的評価コンテンツ、技術イメージの確立を図るトレーニングコンテンツ ✓ 実習代替コンテンツの内容は「車体の分解・構造」、「損傷診断技術」、「損傷波及診断技術」、「钣金ハンマリング術・絞り技術」、「補修塗装技術」
教育プログラムの特徴	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 遠隔教育の課題である「主体的な学びの制約」に対応するため、スマートフォンを操作しながら問題解決的に疑似体験する問題解決型のコンテンツを開発し、学生参加型の授業を展開する。また、技術イメージを確立する魅力的なコンテンツの開発により主体的にイメージトレーニングに取り組ませる ✓ ゲーミフィケーション手法を用いたコンテンツの提供により、学生はゲーム感覚で自分の学びを振り返ることができるだけでなく、教師は学生をつまづきの状況を把握できる。ゲーム感覚で技術イメージを構築できるコンテンツでは、初級編、上級編など徐々に難度が高くなるだけでなく、学生のトレーニングの状況を教師が把握可能
連携先	✓ (株)ZIPAN WORKS、神戸トヨペット(株)、(株)クリエイターズ・ラボなど多数の自動車関係企業、先端技術開発企業が推進委員会、コンテンツ制作部会、車体構造WG等に参画
成果・期待効果	✓ 実習により経験を積むことが求められる自動車整備士養成課程において、対面と同等レベルの力をつけられる遠隔教育コンテンツの開発は、日中の授業を受講することが難しい 社会人等、新たな層の学生の獲得をすることにつながる だけでなく、学生の自習教材として学生の能力の底上げにも貢献しうる
出所	✓ 日本工科大学校、「钣金・塗装技術習得のための遠隔教育実践モデル事業 成果報告書」、 https://www.nihonkouka-app.jp/assets/pdf/report2021.pdf (2023年11月27日閲覧)

①工業分野(自動車整備)

日本工科大学校

「钣金・塗装技術習得のための遠隔教育」(2/2)

- ・車体の構造、損傷診断、钣金整備、塗装整備の各項目の実習時数のうち各々1/3～2/3相当を遠隔教育に置き換える
- ・コンテンツでは実習と同程度の理解を促すため、車の構造・部品、衝突の疑似再現、絞り技術に必要な熱・色変化の視覚化などをCG、3次元技術を駆使して表現する

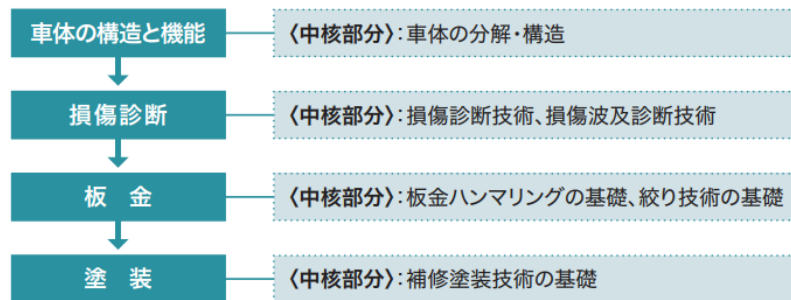
■ 制作コンテンツ詳細

(3)遠隔教育による実習代替指導時数(1時数は100分)

単元	全指導時数	実習時数	遠隔教育	対面実習
車体の構造	19	16	8	8
損傷診断	72	58	35	23
钣金整備	189	171	51	120
塗装整備	230	221	88	133

・遠隔教育の時数は、個人でシミュレーショントレーニング実習する時間を含む。

【車体整備技術の中核となるコンテンツ制作単元】



制作コンテンツ	制作内容
車体の分解・構造	実車分解や部品の名称、機能を3次的に興味深く理解することができるコンテンツの制作
損傷診断技術	資料やCGにより、4種類の衝突(1次元衝突、2次元衝突、向心衝突、偏心衝突)を疑似再現できるコンテンツの制作
損傷波及診断技術	衝突の態様により、損傷が車体のどの部分まで波及するかを視覚化できるコンテンツの制作
钣金ハンマリング技術	職人の钣金技術の効果的な3次元動画や、車体整備士初心者がよく起こす失敗事例を抽出したコンテンツの制作
絞り技術	絞り技術に必要な加熱時の熱の高さと色変化を視覚化する方法や、絞り技術のポイントを3次元映像化したコンテンツの制作
補修塗装技術	補修塗装のポイントを3次元動画や、車体整備士初心者がよく起こす失敗事例を抽出したコンテンツの制作

出所:日本工科大学校「成果報告書」

②医療分野

②医療分野

琉球リハビリテーション学院「リハビリDX人材養成」(1/2)

企業連携

今後の人材需給推計を踏まえ、XR、IoT、AI、ロボットなど先端技術を調べ・導入し・使いこなす、リハビリ医療分野のDX化推進人材を育成。作業療法士の職域拡大や専門性向上といった**新たなキャリアの構築促進**を企図。

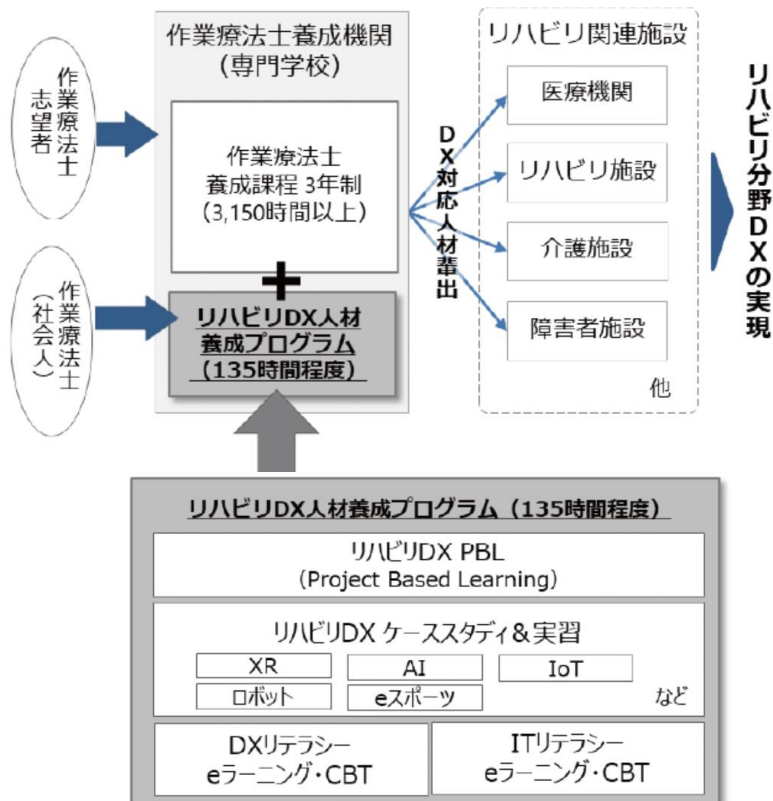
実施主体・所在地	学校法人智帆学園 専門学校 琉球リハビリテーション学院(沖縄県金武町)
プログラム名・概要	医療分野(作業療法)におけるリハビリDX人材養成プログラムの開発事業 ✓ 医療現場でリハビリDXの導入・運用を行う上で必要となる専門知識・スキルを醸成する教育プログラムを開発する(2021年度～)
実施経緯・背景	✓ リハビリ医療分野では、業務効率化・対応力強化・医療の質的向上のため、XR技術やIoT技術、AI技術、ロボット技術といった先端IT技術を活用した新しいリハビリが注目されるなど、今後リハビリ分野全体のDXが予測 ✓ 理学・作業療法士の需給推計では大幅な供給過多が推定。今後、作業療法士には職域の拡大や専門性の向上などが必要 ✓ 作業療法士を養成する専門学校では、リハビリテーションのDXを推進する「リハビリDX人材」の養成が急務
教育内容詳細	✓ 目指す人材像:リハビリDXのシーズ・先行事例を情報収集・分析、主体的に治療へ取り込み、リハビリ医療のDXを推進する作業療法士 ✓ リハビリDX活用事例等の知見、先端技術等の概略的知識、先端技術等を理解する上での基礎となるITリテラシーを習得し、新しいリハビリ医療の導入を主体的に推進するコンピテンシーを醸成 ✓ 先端技術を活用した新しいリハビリの導入等をテーマとした課題解決型プロジェクト学習を実施、グループワークを行い、情報収集・分析力、企画立案力、チームワーク力などの能力を習得 ✓ XR 技術、AI 技術、IoT 技術、ロボット技術、eスポーツなどを活用したリハビリDXの先行事例・シーズについて事例研究を行い、一部の有力事例については実習も行う。DX、ITについての概略的な知識や活用事例、IT の基盤的な知識も習得 ✓ カリキュラムは全体で135時間程度。リハビリDXに関わる「リハビリDXPBL(Project Based Learning)」、「リハビリDXケーススタディ&実習」、「DXリテラシーeラーニング・CBT」、「ITリテラシーeラーニング・CBT」
教育プログラムの特徴	✓ 作業療法士養成課程に在籍する専門学校生、社会人(作業療法士)を履修対象者とし、リハビリにDXを導入することのできるリテラシー・コンピテンシーの醸成を企図 ✓ リハビリDXの技術を使いこなせる知識を習得するプログラムで、既存の作業療法士養成課程へのアタッチ教育として構成されており、社会人は当該プログラムを単体で受講できる他、 社会人受講生を念頭に eラーニング学習コンテンツ、CBTも整備
連携先	✓ (株)ザ・ウェブや(株)琉球DigiCo等の企業が、プログラム開発・技術的知見の提供などで協力
成果・期待効果	✓ 作業療法・リハビリ分野において、DXを主導できる人材を育成することで、地域のリハビリ医療分野におけるDX化に貢献
出所	✓ 琉球リハビリテーション学院、「リハビリ医療成果報告書」、 https://www.ryukyu.ac.jp/2023/05/08/%E4%BB%A4%E5%92%8C4%E5%B9%B4%E5%BA%A6%E3%80%8C%E5%B0%82%E4%BF%AE%E5%AD%A6%E6%A0%A1%E3%81%AB%E3%82%88%E3%82%8B%E5%9C%B0%E5%9F%9F%E7%94%A3%E6%A5%AD%E4%B8%AD%E6%A0%B8%E7%9A%84%E4%BA%BA%E6%9D%90%E9%A4%8A/ (2023年12月13日閲覧)

②医療分野

琉球リハビリテーション学院「リハビリDX人材養成」(2/2)

- ・カリキュラムは全体で135時間程度、既存課程に上乘せする
- ・作業療法士はユーザ的な役割であるため、リハビリDXの活用事例の研究・実践、PBL※によるコンピテンシー醸成を核とし、要素技術はリテラシーレベル。履修者には履修証明書を発行する

■ 開発するプログラムの全体像



■ プログラムのカリキュラム

科目名	時間数	学習内容と使用教材の概略
リハビリDX PBL	45時間	リハビリ医療施設における先端技術等を活用した新しいリハビリテーションの導入等をテーマとした課題解決型プロジェクト学習を実施 グループワーク等で学習を行い、情報収集・分析、企画立案、チームワークなどのコンピテンシー醸成を図る
リハビリDX ケーススタディ&実習	45時間	XR技術、AI技術、IoT技術、ロボット技術、eスポーツ等を活用したリハビリDXの先行事例・シーズについて事例収集を行い、一部の有力事例は実習も行う
DXリテラシー eラーニング・CBT	32.5時間	DXの社会的背景、DXにつながるデジタル技術の概略的知識、活用事例、DXに向けて必要なマインド・スタンスなど、DXを推進する上での分野横断的な基本知識を習得する
ITリテラシー eラーニング・CBT	22.5時間	ITビジネスの動向、ITシステム・ネットワーク等の概念・仕組み、リスクマネジメント、セキュリティ、システム開発・運用の体制・プロセスなどITの基礎的な知識を習得する

出所：取り組み事例集よりMRIが作成

出所：「専門学校による地域産業中核的人材養成事業」受託団体取り組み事例集

※ PBL：プロジェクトベースドラーニング

出所）「専門学校による地域産業中核的人材養成事業」における受託団体の取り組み事例集、 <https://project.nikkeibp.co.jp/bpi/seminar/19/dmext2022/jirei/ryuku/> （2023年12月14日閲覧）

③衛生分野(美容)

③衛生分野(美容)

河原ビューティモード専門学校

「AR・VR利用による実習アップデート」(1/2)

企業連携

VR映像教材を活用したプロ特有のノウハウに関する効果的な実習と、空き時間での反復訓練による早期の技術習得により、入職後の負荷を軽減し**離職抑止を企図**。学習の時間効率は**3～5倍**に、また教員側の負担削減にも寄与。

実施主体・所在地	学校法人河原学園 河原ビューティモード専門学校 (愛媛県松山市)
プログラム名・概要	VR・AR等の先端技術導入による美容師育成実習授業の現代的アップデート ✓ VR・ARの先端技術を活用した教材と実習カリキュラムを開発し、より教育効率の高い方法に転換を企図(2021年度～)
実施経緯・背景	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 美容技術習得は紙のテキストと、教員による実演を「見て学ぶ」ことで行われるが、平面のテキストでは頭部を立体的に捉えることは難しく、学生は傍観者の視点で手技を見るのみ。技術習得には反復訓練が必要だが、教員が何度も手本施術を繰り返すのも効率が悪く、授業内で習得できる技術は限定 ✓ 入職後の技術習得は、残業や長時間労働によってまかなわれており、過重な労働負荷が早期離職に影響
教育内容詳細	<ul style="list-style-type: none"> ✓ VR映像教材、ARデジタル教材の開発:①XRゴーグル、②3Dホログラム(VR映像)撮影技術、③AR技術を用いた教材開発を実施 <ul style="list-style-type: none"> ・スタイリストの視点:スタイリストの視点で、距離や位置、目線などプロ特有のノウハウをVRにより疑似体験。自由にVR空間を移動しながら手元や角度を確認したり、映像を止めて空間を回したりすることが可能 ・立体的な映像教材(差分体験):VR映像空間上に表示される高い技量を持つスタイリストの動きの上に学生自身の動きを重ねて表示させ、両者の動きの「差」を体験することで技術習得を補助 ・繰り返し学習(反復体験):VR映像教材で任意の場所を繰り返し再生できれば、難易度の高い技術を反復して体験することが可能。授業の空き時間や放課後、自宅などで反復して体験することで、より短期間での技術習得を目指せる ✓ 併せて、カット・カリキュラム案も開発。ベーシックカット(51.4時間)、ベーシックブロー(18.5時間)、スタイルカット(44.5時間)の各スタイルの実習中にVR教材を組み込み、サロンにおける入職者教育でも使用可能なカリキュラムを開発
教育プログラムの特徴	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 従来の教材・実習の課題「平面的」、「傍観者の視点で見て学ぶ」、「一度のみ」に対し、VR映像の活用で「実際のスタイリスト視点で」、「立体的に」、「何度も見る」ことができ、精度の高い効果的な学習を実現し、早期の技術習得を促進 ✓ 疑似体験だけでなく教員の視点をモニターに投影しながら教員がVR映像教材について解説することで、より効果的な実習授業を行うことが可能
連携先	✓ 事業実施委員会・作業部会に属する(株)ニューヨーク・ニューヨーク、CGCGスタジオ(株)など、多数の企業が開発・実証に関与
成果・期待効果	✓ VR映像教材の使用により、これまで少人数ずつ複数回に分けて実施していた実演を1度で全生徒に共有でき、 時間効率は3～5倍、同じ時間内で90～150コマ分の学習項目の学習が可能になる 。効果的な技術習得だけでなく 教員の負担軽減 も
出所	✓ 河原ビューティモード学園、「事業成果報告書」、 https://beauty.kawahara.ac.jp/wp-content/uploads/sites/5/2021/04/2020_monkasyojigyuu_seikahoukokusyo_KBM.pdf (2023年11月29日閲覧)

③衛生分野(美容)

河原ビューティモード専門学校

「AR・VR利用による実習アップデート」(2/2)

- ・VR映像の活用により「スタイリスト視点で」「立体的に」「繰り返し」プロの技を見ることで、精度の高い効果的な学習を実現
- ・実際のサロンでの入職者教育にも使用可能なカリキュラムを開発。VR映像教材を併用し、カット技術習得までに必要なウィッグの数も軽減することが可能に

■ VR映像教材イメージ



出所：河原ビューティモード専門学校「事業報告書」

■ 開発されたカリキュラム案

3.4.4. 技術習得に必要な期間とコマ数

・ベーシックカット	： 51.4時間
・ベーシックブロー	： 18.5時間
・スタイルカット	： 44.5時間
合計：114.4時間（76.5コマ）	

- ・使用ウィッグ台数最低22体
- ・週1回、1回1コマペースなら約16～17ヶ月
- ・1日5コマ集中的にやれば、16日間

出所：河原ビューティモード専門学校「事業報告書」

■ カリキュラムの内容

ベーシックカット	水平ワンレングス(6.5時間) 前下がリワンレングス(5.6時間) 前上がリワンレングス(5.8時間) グラデーション(12.5時間) レイヤー(14時間)、シングルリング・刈り上げ(3時間) セニング(2.5時間) 質感調整(1.5時間)
ベーシックブロー	ワンレングスブロー、グラデーションブロー、レイヤーブロー各360分
スタイルカット	ミディアム～ロングスタイル1～3(4.5時間)、(4.5時間)、(4.5時間) メンズショート1～3(6.5時間)、(4.5時間)、(4.5時間) ショート～ミディアムスタイル1～3(6.5時間)、(4.5時間)、(4.5時間)

河原ビューティモード専門学校「事業報告書」よりMRIが作成

出所)河原ビューティモード専門学校、「事業成果報告書」、https://beauty.kawahara.ac.jp/wp-content/uploads/sites/5/2021/04/2020.monkasyojigyou.seikahoukokusyo_KBM.pdf(2023年12月4日閲覧)

④教育・福祉分野

④教育・福祉分野

沖縄福祉保育専門学校

「介護・保育における実習の遠隔教育モデル」(1/2)

企業連携

先端技術の活用で、実経験が必要な介護の「手技」の遠隔教材で習得可能に。ヒヤリハット防止の知見の共有もでき、**受講生全員から本教材を利用したいというニーズあり。**

実施主体・所在地	学校法人大庭学園 沖縄福祉保育専門学校(沖縄県那覇市)
プログラム名・概要	介護・保育分野における演習・実習科目に係る遠隔教育実現のモデル化と教育の品質向上に関する実証研究事業 ✓ 既存技術や先端技術を組合せ、介護・保育分野における実習科目の動画・VR教材などを開発。遠隔教育で活用(2021年度～)
実施経緯・背景	✓ 介護福祉士や保育士等の教育現場では、実践的な職業訓練というカリキュラムの特色から、遠隔での授業の実施が進んでいない ✓ 特に介護のカリキュラムは、その多くが手技などを学ぶ演習科目や、施設等への訪問が前提となる実習科目を中心とした科目で構成。そのため、 授業品質を落とすことなく遠隔授業に切り替えることは、困難と推測 されてきた
教育内容詳細	✓ 先端技術等を活用し、これまで 対面でしか学べなかった「手技」の習得を促す介護教材、ヒヤリハット教材を開発 ✓ 様々なデバイスを用いて、次のような現場実習の動作を教材化することを想定 <ul style="list-style-type: none"> 介護者から利用者へ声かけをする際にアイトラッカーやグラスを使用し、介護者の視線がどこを見ているかを可視化。指導者及び学生双方で適切な動作を確認 ベッドから車いすへの移乗に際し、スマートグラスを使用して介護者の手元の画像・映像を撮影。作業手順や注意点などの指導に活用 ホロレンズを用い介護者が今見えている情報に動画マニュアルや作業指示書を表示させ、介護作業を支援 ✓ 動画では骨格情報を付加し、重心・回転軸・手の位置を表現する。映像で確認しにくい細部には、3Dコンテンツなどで好きな角度から確認可能に
教育プログラムの特徴	✓ アイトラッカーを用いて画面に映し出された介護場面の写真を学生に見せ、視線の動きを自動計測することで、高齢者が転倒しやすい場面などの危険性をチェックできているかを繰り返し確認し、事故を未然に防ぐ力を養成 ✓ ベテランの介護士は経験によって危険予測に長けている。先端技術の活用でベテランと学生の視線の違いを比較し、ヒヤリハットの経験を共有するだけでなく、リスクや原因の理解も促すことが可能
連携先	✓ 情報提供・実習受入を行う福祉施設の他、(株)NTTデータMHIシステムズ中国支社を始めとする6社が調査検証評価に参画
成果・期待効果	✓ 実習により経験を積むことが求められる介護現場で必須となる手技の習得、ヒヤリハットの知識の共有を図ることのできる教材の開発により、学生の能力向上、安全で質の高い介護・保育の実現に寄与するだけでなく、業界全体のDX化の一助となることが期待 ✓ アイトラッカー実証授業後の受講生による評価は、 受講生全員が介護実習前に本教材を利用した方がよいと回答
出所	✓ 沖縄福祉保育専門学校、「令和3年「専修学校における先端技術利活用実証研究」成果報告書」、 https://ooba-gakuen.ac.jp/cms/wp-content/uploads/2022/06/81df4b640c8f08b7373c4b7868c2b01c.pdf (2023年11月27日閲覧)

④教育・福祉分野

沖縄福祉保育専門学校

「介護・保育における実習の遠隔教育モデル」(2/2)

- ・アイトラッキング技術を用いたヒヤリハット教材の制作の一環として実証授業を実施
- ・学生はヒヤリハットに関する画像や動画を視聴、画像から必要な情報を読み取れているかを計測した視線情報をもとに熟練介護士の視線情報と比較、観察を評価することで、ヒヤリハットにつながる危険察知を学ぶ

■ アイトラッカーを用いた実証授業の様子



出所：沖縄福祉保育専門学校「成果報告書」

■ アイトラッカー実証授業後の学生による評価

設問. 4
介護実習の前の学習に、今回の教材を利用したほうが良いと思いますか？



出所：沖縄福祉保育専門学校「成果報告書」

出所) 沖縄福祉保育専門学校、「令和4年「専修学校における先端 技術利活用実証研究」成果報告書」 <https://ooba-gakuen.ac.jp/cms/wp-content/uploads/2023/03/%E2%91%A0%E3%80%90%E6%B2%96%E7%B8%84%E7%A6%8F%E7%A5%89%E4%BF%9D%E8%82%B2%E5%B0%82%E9%96%80%E5%AD%A6%E6%A0%A1%E3%80%91%E5%B0%82%E4%BF%AE%E5%AD%A6%E6%A0%A1%E3%81%AB%E3%81%8A%E3%81%91%E3%82%8B%E5%85%88%E7%AB%AF%E6%8A%80%E8%A1%93%E5%88%A9%E6%B4%BB%E7%94%A8%E5%AE%9F%E8%A8%BC%E7%A0%94%E7%A9%B6%EF%BC%88%E5%B0%82%E4%BF%AE%E5%AD%A6%E6%A0%A1%E9%81%A0%E9%9A%94%E6%95%99%E8%82%B2%E5%B0%8E%E5%85%A5%E3%83%A2%E3%83%87%E3%83%AB%E6%A7%8B%E7%AF%89%E3%83%97%E3%83%AD%E3%82%B8%E3%82%A7%E3%82%AF%E3%83%88%EF%BC%89%E6%88%90%E6%9E%9C%E5%A0%B1%E5%91%8A%E6%9B%B8.pdf> (2023年11月27日閲覧)

⑤商業実務分野(観光・宿泊)

秀林外語専門学校「DX観光人材養成プログラム」(1/2)

企業連携

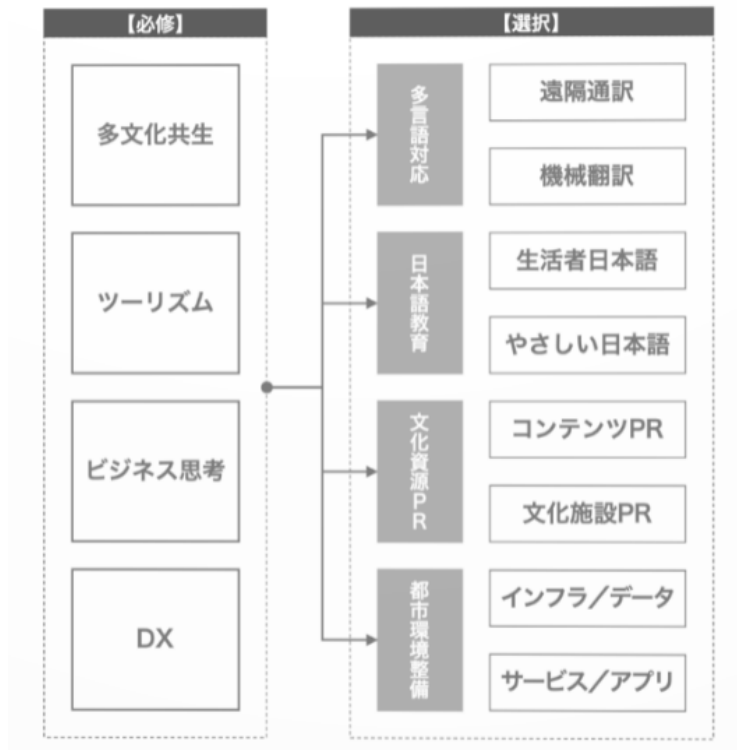
観光分野でのDX教育のニーズを踏まえ、多言語対応×日本語教育×文化資源の情報発信で観光振興×まちづくり推進を実現するDX人材を育成。多様かつ柔軟な教育手法により、主な対象である社会人の受講獲得を企図。

実施主体・所在地	金井学園秀林外語専門学校（東京都江東区）※現名称「専門学校 デジタル&ランゲージ 秀林」
プログラム名・概要	多文化共生に向けた発信力を強化するDX 観光人材養成プログラムの開発 ✓ 地域発信力を強化するDX観光人材を養成する教育プログラムを開発(2022年度～)
実施経緯・背景	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 多文化共生のまちづくりでは、多言語対応、日本語教育、文化資源の情報発信が重要。それらはインバウンド誘客による観光振興につながり、かつデジタル技術の活用が期待される領域 ✓ 観光を扱う専門学校は数多いが、現場の対応を担う実務人材の育成を目的にしたものが主流で、経営・マネジメントや都市構想・文化発信等の領域を扱うことは少なく、DXを体系的に教育することはほぼない
教育内容詳細	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 多文化共生まちづくりDXを構想するマインドの醸成 <ul style="list-style-type: none"> ・ダイバーシティ、アイデンティティ、サステナビリティ、プロフェッショナリズム等 ✓ 地域発信型DX観光人材のリテラシー <ul style="list-style-type: none"> ・経営リテラシー、DXリテラシー、ツーリズム等 ✓ 地域発信型DX観光人材のスキル <ul style="list-style-type: none"> ・多言語対応の通訳・翻訳、生活者日本語・やさしい日本語の教育・学習、文化資源PR(コンテンツ・文化施設)、都市環境整備等におけるデジタルスキル ✓ 講義、演習、実習、自習の4形態で実施し、一部の演習・実習をのぞき大部分をオンラインで行う。オンライン教育基盤を構築し、オンデマンド型・ブレンド型・ハイブリッド型・ハイフレックス型など、多様かつ柔軟な教育手法を試みる
教育プログラムの特徴	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 履修者として、観光・ビジネス・語学分野の専門学校生および地方行政や観光等の分野で外国人対応を必要とする社会人を想定 ✓ 観光×まちづくりに多文化共生という観点を加え、マネジメントとDXを教育要素として取り入れ、地域の発信力強化に焦点を当てた観光人材養成の教育プログラムは新しい取組
連携先	✓ プログラム開発事業にヒートウェーブ(株)、(株)サントラベルなどの企業が複数参画し、調査・開発・実証に協力
成果・期待効果	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 地域発信力強化策を企画・推進するDX観光人材を育成することで、地域の観光振興と多文化共生推進に寄与 ✓ AIやロボット、非接触型サービス、道路や各スポットの混雑度の可視化など、まちづくりや観光振興におけるDXは運営の効率化だけでなく、安全安心な都市基盤や観光環境の整備によりスマートシティの実装にも貢献
出所	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 出所) 文部科学省令和4年度委託事業「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」における受託団体の取り組み事例集、https://project.nikkeibp.co.jp/bpi/seminar/19/dmext2022/jirei/shurin/(2023年11月24日閲覧) ✓ 専門学校デジタル&ランゲージ秀林、「事業報告書」、https://shurin.ac.jp/%E4%BA%8B%E6%A5%AD%E5%A0%B1%E5%91%8A%E6%9B%B8/(2023年11月24日閲覧)

秀林外語専門学校「DX観光人材養成プログラム」(2/2)

- ・教育プログラムは【必修】=リテラシーの習得と【選択】=スキルの習得の2部からなる
- ・受講者は全員【必修】パートの全科目・単元を履修し技術・知識のリテラシーを身につけた後、各々の志望で【選択】パートの任意のコースに進んで学習する

■ カリキュラム構成と必須部のテーマ



領域	テーマ
1 多文化共生	1) 多文化共生の理解
	2) 社会の諸領域における多文化共生の推進
2 ツーリズム	1) 観光産業の構成・特徴と各業種の実情と課題
	2) 観光振興の主な施策——その実情と課題
	3) これからの観光の展望
3 ビジネス思考	1) ビジネスとビジネス思考
	2) ビジネス思考のフレームワーク
	3) DXとデザイン思考
4 DX	1) DXの基本認識
	2) データ・技術の知識
	3) データ・技術の活用

出所:専門学校デジタル&ランゲージ秀林「事業報告書」

東京経営短期大学「観光ホスピタリティコース」(1/2)

ホテルオークラ現役スタッフから学ぶ一流のオペレーション+語学力・ビジネススキルの習得で即戦力人材を養成。卒業生採用や企業ネームバリューによる学生確保等といった形で、**企業／学校双方にとってメリットのある連携**。

実施主体・所在地	東京経営短期大学（千葉県市川市）
プログラム名・概要	観光ホスピタリティコース supported by Hotel Okura(経営総合学科) ✓ ホテルオークラとの連携による実践的な学びでホテルサービスに関する専門的な技術を習得(2022年度～)
実施経緯・背景	✓ ホテルオークラがコース運営について授業内容・講師派遣等を通じて支援する日本初のホテルコースとして、2022年4月に新設 ✓ ホテルオークラは海外展開の拡大に伴い、「日本のおもてなしの心に根差したホスピタリティ」を担う海外人材の育成のため10年間で約2億円の資金を投じ、従業員の日本留学制度を整備する予定。留学先として当該校を想定
教育内容詳細	✓ ホテルオークラ支援による実践的な学びを中心に、豊かなコミュニケーション能力とホテルサービスに関する専門技術を習得 ✓ 即戦力となるホテルオペレーションスキルのみならず、語学力、ビジネススキルを身につけるカリキュラム構成 ✓ 語学スキルでは2年間で10科目の英語講義を必修化。TOEIC600点突破を目指す ✓ ビジネススキルでは経営総合学科の強みである簿記会計等の講義を通じ、日商簿記やファイナンシャルプランニング、秘書技能検定などの資格を取得。「学内塾」を併用し、マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)等のITスキルも習得 ✓ ホテルオペレーションスキルでは、ホテルオークラの設備を再現したリアル実習室、 ホテルオークラグループへの複数回のインターンシップ を通じ、ホテルサービスの即戦力を養成
教育プログラムの特徴	✓ ホテルオペレーションのサービス技術の習得だけでなく、経営総合学科の強みを活かしホテルに関する経営知識も学ぶことが可能 ✓ オークラグループの各ホテルにおいて、卒業生を積極的に採用する他、海外グループホテルの従業員および新規開業ホテルの採用予定者から毎年3名程度を同大学に留学させ、同コースを受講できるように ✓ インターンシップでは同グループが国内外に展開する様々なエリアやロケーション、階層ターゲット別のホテルが対象となり、希望者はハワイの提携大学やスイスの名門ホテルスクール「エコール・ホテルエ・ローザンヌ」への短期留学を選択することが可能 ✓ 同コースのコース長はOkura Tokyoの元支配人であり、ホテルオークラの客室、宴会場を再現したリアル実習室で現役のホテルスタッフから直接指導を受けられるなど、ホテルオークラとの連携を発揮したプログラム ✓ ホテルオークラのネームバリューにより、進学先として同校を選ぶ学生も
連携先	✓ (株)ホテルオークラ東京
成果・期待効果	✓ 企業側は同コースの卒業生を採用する／従業員を留学させることで、自社研修を短縮できる即戦力の人材を確保。学校側は企業のネームバリューを利用でき、実践的なプログラムの提供ができる等、 企業／学校双方にメリットのある連携
出所	✓ 先端教育オンライン「ホテルオークラ、東京経営短期大学と産学連携で授業コース新設」、 https://www.sentankyo.jp/articles/326036fc-bf7f-43b5-b91f-7560e38d11a1 、(2023年12月11日閲覧) ✓ 東京経営短期大学、「観光ホスピタリティコース」、 https://www.tokyo-keitan.ac.jp/management/sightseeing/ (2023年12月11日閲覧)

⑤商業実務分野(観光・宿泊)

東京経営短期大学「観光ホスピタリティコース」(2/2)

- ・ホテル運営の実践的なスキルに加え、経営学科の強みを活かし、経営学・簿記・会計学を効率的に学ぶカリキュラム
- ・簿記・FPのための村田塾、PCスキル・英語のための1UP塾、大学編入のための特進会と学内塾を設置、学生のスキルアップに対応

■ 観光ホスピタリティコースカリキュラム

本物を学ぶ

本学ならではの会計学・経営学等のビジネスマインドに加え、ホテルオークラのホスピタリティ精神・ホテルオペレーションスキルを身につけ、即戦力として活躍できる力を身につけます。



出所:東京経営短期大学観光ホスピタリティコースパンフレット

出所)東京経営短期大学「観光ホスピタリティコースパンフレット」、<https://www.tokyo-keitan.ac.jp/wp-content/uploads/2021/08/067e359e9fd789dc8b4f13c6c9c07c50.pdf> (2023年12月11日閲覧)

⑤商業実務分野(小売)

新潟ビジネス専門学校「医薬品・登録販売者学科」(1/2)

早期に「登録販売者」資格を取得し、座学と並行して**有給の店舗実習**を行う。企業にとっては即戦力人材の確保、学生にとっては資格の早期取得と有給での実務経験といった形で、**企業／学生双方にメリットのある連携**を実現。

実施主体・所在地	学校法人国際総合学園 新潟ビジネス専門学校（新潟県新潟市）
プログラム名・概要	医薬品・登録販売者学科 ✓ 登録販売者資格を取得できる「医薬品・登録販売者学科」(2018年～)
実施経緯・背景	✓ 薬を販売していく企業にとって登録販売者資格を持つ人材の採用は急務であることから、ドラッグストア業界の採用活動が活発化 ✓ 登録販売者資格取得への注目度と企業側・社会側のニーズから、2018年度より学科を新設
教育内容詳細	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 薬のアドバイザー「登録販売者」を目指す専門学科。成分・種類、効果・効用、副作用、保管管理といった薬学スキルと、アドバイス力や店舗経営力といった販売スキルを習得 ✓ デュアルコース、調剤薬局コース、美容薬学コースの3コースで構成 <ul style="list-style-type: none"> • デュアルコース:登録販売者を目指すコース。1年次の9月に登録販売者試験を受験して資格を取得し、その後は座学と並行して有給での店舗実習を進める。取得する資格は登録販売者と販売士など • 調剤薬局コース:登録販売者と調剤事務の資格を取得。登録販売者に加え薬学検定と調剤事務も学ぶ。登録販売者にはない医療用医薬品も学ぶため、ドラッグストアだけでなく調剤薬局への就職に有利 • 美容薬学コース:美容や健康のための知識を学び化粧品やサプリメントを販売。美容・薬学・接客販売を専門的に学習可能
教育プログラムの特徴	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 1年次9月の登録販売者試験の受験後、登録販売者必須の実務経験である月80時間の実務実習(有給でのインターンシップ)を産学連携企業からの協力により開始 ✓ 登録販売者に必須の実務経験2年(1920時間)のうち、8割(約1年半)を在学中に実施可能 ✓ 有償の実習のため学費の負担を減らすことができる ✓ 企業側も資格を持った学生の実習を受け入れることで人材不足を補うことができ、学生側にとっても実習・収入の確保だけでなく、就職につながる場合も
連携先	✓ (株)マツモトキヨシ、(株)カワチ薬品、(株)ツルハドラッグ、(株)富士薬品:ドラッグセイムスなど大手7社が実習先
成果・期待効果	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 人材育成のみならず、現場で1年半の実習を行うことにより、地域のドラッグストアや調剤薬局の人材不足解消に貢献する ✓ 連携企業は当座の人材確保だけでなく採用活動の効率化というメリットも得られる
出所	✓ 新潟ビジネス専門学校、「医薬品・登録販売者学科」、 https://www.nbc.ac.jp/subject/dispensing/ （2023年11月29日閲覧）

⑤商業実務分野(小売)

新潟ビジネス専門学校「医薬品・登録販売者学科」(2/2)

- ・早期の資格取得により、登録販売者に必須の実務経験2年のうち、1年半を在学中に有給で実施できるシステム
- ・調剤薬局コースでは薬学検定と調剤事務も学び、調剤コンピュータを使用したレセプト作成、カルテ読解力など現場での即戦力も身につける

■ デュアルシステムのスケジュールと調剤薬局コースの授業例



目指す職業

- ◆登録販売者
- ◆ドラッグストアスタッフ
- ◆調剤薬局スタッフ
- ◆病院薬局アシスタント
- ◆医療事務 など

タイムテーブル

タイムテーブル[例]

実習科目 ※タイムテーブルは変更になる場合があります。

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1 9:30-10:15	調剤保険 事務	薬事概論	カルテ読解	調剤報酬 請求事務	POP広告 実習
2 10:25-11:10					
3 11:20-12:05	就職実務	登録販売者 試験対策	一般薬 医薬品知識	Word 実習	就職実務
4 12:55-13:40					
5 13:50-14:35	調剤 コンピュータ	薬学検定	サービス 接遇	登録販売者 試験対策	計算実務
6 14:45-15:30					

出所:新潟ビジネス専門学校HP

⑥服飾・家政分野

東京ファッションテクノロジーラボ

「3Dモデリスト育成」(1/2)

成果

企業連携

最先端技術活用の教育プログラムを他地域に展開し、教育ノウハウのない学校でも3Dモデリストを育成可能に。
プログラム展開先の学校や業界企業と産学連携を行い、プログラムで学習した内容を活かした新商品を開発。

実施主体・所在地	東京ファッションテクノロジーラボ(TFL) (東京都渋谷区)
プログラム名・概要	3Dモデリスト育成 ✓ 大阪文化服装学院と教育提携し、関西地区でファッション業界のDXにつながる職種「3Dモデリスト」の育成に着手(2021年～)
実施経緯・背景	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「3Dモデリスト」はファッション産業のサプライチェーンのDXにつながる重要な職種だが、高度なスキルを必要とする3Dモデリングソフトの教育をできる講師は少なく、ファッション以外のCGや映像領域の教育ノウハウも必要なため、ファッション専門学校では特定ソフトのオペレーション授業の提供に限定 ✓ 全国のファッション専門学校では「ファッションデザイナー」、「パタンナー」、「ファッションプレス」などクリエイティブ人材育成を担っていたが、国内アパレルの衰退、生産機能の海外流出、アパレル本社機能の東京集中などに伴い、地方での就職が困難な状況
教育内容詳細	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 大阪文化服飾学院と教育連携し、TFLの持つ複数領域の教育ノウハウを提供、関西圏での3Dモデリスト育成に着手 ✓ 3Dモデリストの必要スキル及び習得期間は、洋服構造・製造理解(2年以上)に加え、基本スキルとしてモデリング/テクスチャリング/アニメーション(半年～1年)、ライティング/リギング(半年) ✓ 3Dモデリストの教育領域として、ファッション領域の教育に加え、機械領域、CG領域、映像領域の教育を提供 ✓ TFL、大阪文化服飾学院、(株)アーバンリサーチ、(株)ヤギによる「産産学プロジェクト」も実施。育成した3Dモデリストがデザイン開発を担当し、3Dモデリングを活用した商品企画からの商品化を実現
教育プログラムの特徴	<ul style="list-style-type: none"> ✓ TFLグループの一般社団法人ファッションデザインエンジニアリング協会で実施する3Dモデリストの資格検定制度(1級～3級)を実施。資格制度により保有スキルの評価が可能になり、専門スキル人材としての価値を向上 ✓ 教育連携により、3Dモデリング等の先端技術の教育ノウハウが無い学校でも、実践的な教育を提供することが可能に
連携先	✓ 学校法人ミクニ学園大阪文化服装学院、(株)ヤギ、(株)アーバンリサーチと産学連携プロジェクトを実施、商品開発を実現
成果・期待効果	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 3Dモデリストは場所を問わずリモートで仕事ができる新しい職種。3Dモデリストは関東圏に集中するアパレル企業の3DCG制作業務をリモートで請け負うことが可能になり、ファッションクリエイターの地方での雇用創出につながる ✓ (株)アーバンリサーチ、(株)ヤギとの産産学連携では、学生の商品企画のうち4型が採用され商品化が実現。(株)アーバンリサーチの実店舗で販売
出所	✓ TFL、「大阪文化服装学院と提携、ファッション専門学校教育のDX開始!」、 https://tfl.tokyo/blog.20210213/ (2023年12月8日閲覧)

⑥服飾・家政分野

東京ファッションテクノロジーラボ 「3Dモデリスト育成」(2/2)

- ・(株)アーバンリサーチ×(株)ヤギ×TFL×大阪文化服飾学院が「産産学学連携プロジェクト」を実施
- ・3Dモデリングを活用して新たな感性・デザインを生み出し、ビジネス直結の新しい産学協働の実現を目指す
 - 大阪文化服装学院の学生がデザイン・3Dモデリング作成、TFL派遣の講師チームが3Dデザインやバーチャルサンプル制作についてサポート
 - (株)ヤギがデザインの際に生地素材・パターンデータを提供、(株)アーバンリサーチの企画チームが審査し4型が商品化に採用
 - (株)ヤギが製品化し(株)アーバンリサーチが実店舗で販売する

■ プロジェクトイメージ



出所)TFL、「2022年4月27日NEWS」、https://tfl.tokyo/news_20220427/、(2023年12月4日閲覧)

出所:TFL公式HP

参考:東京ファッションテクノロジーラボについて(1/2)

- ・日本初であるファッションテックの養成学校。大学・短大・専門学校の在学中の人でも入学可能
- ・企業運営のスクールであるため、週一からの通学など大学生や社会人に配慮したコース設定
- ・先端ファッション技術の獲得とビジネスマインド醸成によるリスキリング、スキルアップを後押しする

■ 東京ファッションテクノロジーラボ(TFL)

概要	3Dモデリング・3DCG・VR・ARなどデジタル技術を活用するファッション人材を育成するファッションテックの養成学校
設立の背景・目的	ICTや最新のデジタル技術の活用でファッション産業を変革する人材育成を目的に2017年に設立
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 3Dモデリング「CLO」等、教育に最新デジタルを導入し、通常専門学校の4年分のレベルに1年で到達する短期学習 ✓ ファッション、ICT、先端技術、日本の伝統技術など、多様な分野のプロフェッショナルが講師として授業を担当 ✓ スタートアップ支援『F-tech』でブランドデビューやビジネス創業の機会、投資家に向けたビジネス・ピッチのチャンスも提供。在学中から起業ができ、大学生の就職活動にも有利 ✓ 大学生、アルバイト、社会人を対象とし、週1日からも通学可能なコースなど多様なコース設定 ✓ 学内のAI・バーチャルファッション・デジタルツイン研究会などで新しい技術やノウハウの産業活用を研究し、最先端の技術動向に常にキャッチアップ

■ 社会人向けの工夫点

- 大学生、アルバイト、社会人を対象としたコースで週1日からも通学可能で、平日夜間のコースや土日に実施するコースもある
- 振り返りや欠席対応として授業映像をクラウドで視聴できる仕組み
- オンラインでの授業参加
- LINE/メールなどで個別の質問対応
- スタッフがアポイント制で不明点などの個別指導などのサポートも充実

参考:東京ファッションテクノロジーラボについて(2/2)

- ・社会人や学生を対象に週1日/3日の通学、夜間土日オンラインと柔軟なコース設定
- ・先端のファッションテックからビジネスまで多彩なコースラインナップを提供する

1年制週3日通学 コース	ファッションクリエイティブ総合科	新世代のクリエイターを育成する1年間の総合コース(ファッションデジタルデザイナー専攻/ファッションテックスタートアップ専攻)
	バーチャルファッションデザイン学部	ファッションデザインやビジネスを全てデジタルで行う、次世代ファッションデザイナー育成コース
1年制週1日通学 コース	ブランドディレクターコース	大学や専門学校の在校生、社会人が対象。デザインとマーケティングを同時に学び、デザイナーやディレクターを目指すコース
	ファッションデジタルマーケティングコース	デジタルリテラシーを持ったファッション人材を育成するコース
	バーチャルファッションデザイナーコース	業界のDXに対応する『デジタル完結型バーチャルクリエイター』を育成。未経験からの就職・転職・スキルアップにも対応した、働きながらでも通える週1日1年間の集中コース
6ヶ月制週1日通学 コース	ブランドデザインBasicコース	コンセプトワークなどのデザインを生み出す手法と基本的なデジタルデザインスキルを学ぶ。ブランド構築のための基礎コース
	ファッションスタートアップBasicコース	ファッションの基礎知識、デジタルマーケティング、最先端技術について学び、企画立案のプロセスを通い新たなビジネスを発想する手法を学ぶ
	バーチャルデザインBasicコース	クリエイティブワーク・素材知識・ファッション3Dモデリングの基礎を習得。素材表現のグラフィックツールの使い方など、基礎的な内容を短期で学ぶ、バーチャルデザイン基礎コース
	アパレルDXコース(経験者向け)	3Dモデリング、テキスタイルや付属など、質感を高める細部のデジタル化の手法を学ぶ。アパレルのリアルプロダクトに関わるDXに特化したファッション3Dフルスペックコース
6ヶ月制週1日夜間/土日/オンラインコース	ファッション3DモデリストExpertコース(経験者向け)	3Dモデリングの最先端を学び、アパレルの生産工程を劇的に短縮、コストを削減。マスカスタマイゼーションによる新たな価値の提供と、生産の最適化による環境負荷軽減にも貢献するキャリアアップコース
特進コース	X-designerプログラム	週1日1年制コース以上の修了者及び同等の知識・技術・企画力を有する者が対象のデザイン系最高峰コース。デザイナーとしての実績づくりを行う
	F-techアクセラレータープログラム	週1日1年制コース以上の修了者及び同等の知識・技術・企画力を有する者が対象の創業・起業を射程圏に捉え、資金調達を目指す超実践プログラム

出所)TFL公式HP、「受講コース一覧」、<https://tfl.tokyo/course/>(2023年12月21日閲覧)

⑦文化・教養分野(eスポーツ)

神戸電子専門学校「esportsエンジニア学科」(1/2)

企業連携

eスポーツ業界が求める創造・知識・技術の総合力を習得し、大会企画・運営のスペシャリストを育成。eスポーツ大会・イベントの企画・運営を担える**人材不足というニーズに着目し、多様なキャリアを目指せるプログラムを設計。**

実施主体・所在地	学校法人コンピュータ総合学園 神戸電子専門学校(兵庫県神戸市)
プログラム名・概要	esportsエンジニア学科 ✓ eスポーツイベント企画運営のスペシャリストを育成(2022年度～)
実施経緯・背景	✓ 新しい業界である eスポーツの世界では、企画・運営などエンジニア・スタッフ側の人材が不足 ✓ 大会企画・運営のスペシャリスト育成に特化したeスポーツエンジニア学科を、2022年4月から新設
教育内容詳細	✓ esports運営/イベント実習/VR空間構築/コンピュータリテラシー/AIリテラシー等の科目で1年次にはeスポーツイベントの企画・運営の基礎を、2年次にはeスポーツイベントをクリエイティブに創造できる応用力を修得 <ul style="list-style-type: none"> 「esports運営」:大会の企画やルール設計などの考え方やその実践方法を学び、プロが使用するミキサーやスイッチャーなどの機械操作のほか、カメラワークや演出効果などを身に付ける。大会運営に必要な映像・配信・ネットワークなどの技術的な知識も合わせて習得。外部会場での実習や外部講師を招いてのセミナーなどで実践的なスキルを会得 「イベント実習」:照明・音響・映像などの舞台オペレーションの基礎を実践的に学習 「VR空間構築」:バーチャル空間構築をゲームエンジンを用いてクリエイティブに創造するスキルを学び、バーチャル空間構築において必須な論理的な思考を養成
教育プログラムの特徴	✓ プログラミング等のゲーム作成やゲームプレイヤーの育成ではなく、 eスポーツ大会・イベントの企画・運営という点に着眼 ✓ 大会開催時に必要となるルール設計や、機器の技術・知識だけでなく、主流のオンライン大会の中でも特に注目されているバーチャル空間を構築するスキルまで身につけることが可能 ✓ イベント企画・演出、ルール設計を行うディレクター、様々な機材の知識・技術で企画された大会を技術的に具現化するテクニカルディレクター、クライアントから案件を獲得し予算・人員管理を行うイベントの責任者であるプロデューサー、イベントの管理・運営を行うeスポーツ施設スタッフ等、 目指せる業種・職種は多様
連携先	✓ ウェルプレイド・ライゼスト(株):業界についての講演会 ✓ 上新電機(株):当該企業の運営するeスポーツ施設を実習先として使用する他、学生主催のイベントを開催
成果・期待効果	✓ 2023年には上新電機(株)との産学連携により、当該企業が運営する本格派eスポーツ施設のeSPORTSアリーナKOBEBE三宮において学生が企画・運営するeスポーツイベント、リアル店舗での交流・体験を広げるイベントを開催 ✓ 地元eスポーツ施設運営企業との連携で、eスポーツによる神戸の地域活性と、将来のeスポーツ業界をけん引する人材育成を志向
出所	✓ 神戸電子専門学校、「eスポーツイベント企画・運営」、 https://www.kobedenshi.ac.jp/course/esports/ (2023年11月21日閲覧)、神戸電子専門学校プレスリリース、 https://www.kobedenshi.ac.jp/whatsnew/category/press (2023年11月21日)

神戸電子専門学校「esportsエンジニア学科」(2/2)

- ・大会の企画やルール設計、機械操作、カメラワークや演出効果、映像・配信・ネットワークなどの技術的な知識と大会の企画・運営に必要な知識・技術を学ぶ「esports運営」を中心に、「イベント実習」、「VR空間構築」などで、包括的・実践的な知識と技術を習得する

■ esports エンジニア学科 カリキュラム

基礎・専門・実務経験の
段階を経て着実に力を身につける

1年次の時間割例

	月	火	水	木	金
1	esports運営Ⅱ	イベント実習Ⅰ	esports運営Ⅰ	esports運営Ⅱ	esports運営Ⅱ
2	esports運営Ⅱ	イベント実習Ⅰ	esports運営Ⅰ	esports運営Ⅱ	esports運営Ⅱ
3	esports運営Ⅱ	イベント実習Ⅰ	esports運営Ⅰ	esports運営Ⅱ	esports運営Ⅱ
4	esports運営Ⅱ	イベント実習Ⅰ	VR空間構築Ⅰ	AIリテラシーⅠ	
5	esports運営Ⅱ	イベント実習Ⅰ	VR空間構築Ⅰ	コンピューターリテラシーⅠ	
6	esports運営Ⅱ		VR空間構築Ⅰ		
放課後			esports部		

※ 年度によってカリキュラム・時間を変更する場合があります。

STEP 01

基礎

イベント企画の考え方や、イベントを運営するための機材のセッティング・ネットワークの構造を学ぶ



STEP 02

専門

校内ステージや外部の施設アリーナを使ってイベント運営の実習を行います。ステージワークだけでなく、VR空間を使ったオンラインイベントなど時代のニーズに合わせた学びを実施します。



STEP 03

実務経験

身につけた技術を使って、実際のイベントの企画から運営まで、学生たち主導で行います。



出所:神戸電子専門学校 HP

過年度事業フォローアップヒアリング調査

過年度事業フォローアップヒアリング調査

- 過年度に実施した文部科学省委託事業について、各取組の状況及び受講料の設定や自走化に関する検討経緯等について調査。
 - 調査には、4受託団体にご協力いただいた。

介護における車椅子シーティングに関する技術習得のための 分野横断型リカレント教育プログラムの開発事業

● 実施主体

- 学校法人摺河学園姫路ハーベスト医療福祉専門学校

● 事業概要

- 欧米では、被介護者の自立支援や、介護者の負担を軽減する手段としてシーティング技術が一般化している。高齢化が加速する日本でも同技術を普及させることを目指す。
- 車椅子のシーティングとメンテナンス技術に係る基礎習得の教育プログラム・カリキュラムを策定し、介護サービス従事者等に対して提供する。(事業期間:令和元年度～令和3年度)

● 現状の取組

- 自走化には至っていないが、既存のカリキュラムにおいて特色科目として開発したプログラムを授業に組み込んでいる。 ※計8コマ(1コマ90分)を組み込む。
- 実績はないものの、スモールスタートとして、謝金をいただきながら、介護施設において職員研修を行いたいと考えており、施設訪問時に、過年度の取組について説明している。また、HPにも情報を掲載し発信している。

● 受講料の設定と負担について

- 講座は未開講であるが、介護施設等より謝金をいただき授業等を実施することを想定。(1万円程度)

● その他(自走化に向けたポイント・示唆)

- ニーズ調査や、カリキュラムのテーマ等初期の計画が非常に重要。日本の介護現場の現状を考慮すると、シーティング技術の導入はテーマとしてレベルが高すぎた。自走化や集客という観点ではもっと分かりやすいものや、現在必要とされているものなどの方が良かった可能性がある。

京都観光復活に寄与する観光人材のための 産学連携リスタートプログラムの開発・実証事業

● 実施主体

- 学校法人大和学園京都ホテル観光ブライダル専門学校

● 事業概要

- 学び直しの環境が整っていない就職氷河期を主な対象として、京都観光を担うに相応しい人材を養成する。
(事業期間:令和2年度～令和4年度)

● 現状の取組

- 昨年度実証が終了し、現状は未開講。当該事業で開発したプログラムは、コロナ禍を前提としたものであり、動画の内容、講義等が現状に即していない部分があるため、本年度事業において、プログラムを拡充・更新し、引き続き自走化を進める。
- その他、京都府が運営する「京都観光アカデミー」に対して、来年4月、作成したコンテンツの素材(一部)を無償提供する予定。今後、産学連携で学び直しの取組を進めていく。

● 受講料の設定と負担について

- 適正価格に関するアンケート結果では、かなりばらつきがあった状況。(1万円～10万円/60時間)
- 定額で学びたいだけ学べるサブスクリプション制とするのか、学習時間に応じた金額を授業料として設定するのか、講座の需要を踏まえつつ、今後検討する予定。

● その他（自走化に向けたポイント・示唆）

- 受講生確保が自走化に向けて重要。事業実証に際し、実効性のある集客方法を検討しておくことが重要。
- 企業派遣が集客のキーとなるが、業界の大手企業から派遣してもらうと信頼につながり集客性を期待できる。
- 誰を講師として起用するのも集客性に影響を与える。(著名な実務家を起用する等)

衣料品小売業のオンライン接客・EC サイト運営のための分野横断型 リカレント教育プログラムの開発事業

● 実施主体

- ▶ 一般社団法人全国専門学校情報教育協会

● 事業概要

- ▶ ICT知識や技術を必要としなかった衣料品の販売員にICTを活用して販売するオンライン接客の知識と技術を習得するための教育プログラムを開発する。(事業期間:平成31年度～令和2年度)

● 現状の取組

- ▶ 現状未開講。今年度実施している「アパレル産業における社会変化に対応した技能アップデートプログラムの開発と実証事業」において開発したプログラムを活かし自走化を目指す。

● 受講料の設定と負担について

- ▶ 講座が未公開であるため、未回答。ただし、講座の動画10分(計3時間)を用いて開講した場合、1人5～7万、企業に負担してもらう必要がある。(動画視聴用のLMS等に費用がかかる)

● その他(自走化に向けたポイント・示唆)

- ▶ ビジネスとして成り立たせるための事業計画と体制作りができないと自走化は難しい。例えば、受講生確保をするために、企業やハローワークを訪問する担当者、メディアを活用した広報担当者、助成金担当者などの体制構築や収益性の検討をプログラム策定に併せて検討する必要がある。
- ▶ プログラムのテーマが非常に重要。プログラムを開発しても、仕事に「直結」しないと意味がないため、企業も社会人も関心を持たない。(例えば、プログラム受講後に、得られたスキルをもって、受講生はどのような仕事ができるようになるのか、企業はどのような仕事を任せられるのか、どのような仕事を得られるのか、を説得力を持って発信しないとイケない。講座受講に対する実益が必要)
- ▶ プログラムの普及に際して、企業から「コンテンツを利用したい」旨連絡を受けるが、文科省への利用申請を出す際に、手続きを説明すると連絡が途絶えてしまうケースがある。企業に対して利用申請の趣旨と、簡易な手続きである旨、丁寧にフォローする必要がある。

(出所)一般社団法人全国専門学校情報教育協会ウェブサイト『令和2年度「専修学校リカレント教育総合推進プロジェクト」(閲覧日:2024年1月5日)
<https://r2monka-itaku.net/clothes-ec/2020/seika/>

介護・保育分野における異文化間異世代間の交流促進のための分野横断型リカレント教育プログラムの開発事業

● 実施主体

- 学校法人敬心学園職業教育研究開発センター

● 事業概要

- 多様性(異文化間・異世代間)について理解を促進し、多様化・国際化する介護や保育の現場において、活躍する人材を育成する。(事業期間:平成31年度～令和2年度)
※異文化理解は受講者と、外国人職員、異世代理解は受講者と施設利用者(被介護者、児童)との相互理解を想定している。

● 現状の取組

- 実証終了後、複数の法人において、社内研修を実施したが、現状、単体では開講はできていない。
- 得られた知見(下記「その他」欄参照)を踏まえ、プログラムを修正し、今年度実施する「これからの高齢社会に対応できる人材育成に必要な介護・医療分野の現場で利活用できる最新技能アップデートのための実践プログラム開発事業及びその有効性を確認する実証検証事業」において、「多様な人材との関わり」という講座を作成し、自走化を目指している。

● 受講料の設定と負担について

- 講座が未公開であるため、未回答。
(事業終了後、自走化に向け無料でプログラム提供をしていたが、受講費を取るまで至らず)

● その他(自走化に向けたポイント・示唆)

- プログラムにおいて、何をしたいかも大切だが、「どうすれば自走化できるのか」を考え、逆算してプログラムを策定することも大切。計画時、どのようにマネタイズできるのか、ビジネスモデルを検討しておく必要がある。
- プログラムの目的が明確である必要がある。当該事業は、①異文化理解と②異世代理解という2つのテーマであり、多分野の取組となったため、プログラム全体のまとまりが弱くなった。プログラムにおいて、テーマが広すぎると、受講生や企業など、ターゲットが広がり、広報や営業がしにくくなるため、集客につながりにくい。
- 自走化に際しては、補助金のリサーチ・活用を行うと良い。

(出所)学校法人敬心学園職業教育研究開発センターウェブサイト『介護・保育分野における異文化間異世代間の交流促進のための分野横断型リカレント教育プログラムの開発』(閲覧日:2024年1月5日)
<https://keishin-group.jp/project.html?id=link03>

令和3年度 専門学校における社会人等受入れ 等実態に関するアンケート調査

令和3年度 専門学校における社会人等受入れ等実態に関するアンケート調査

- 令和3年度に実施した「専門学校における社会人等受入れ等実態に関するアンケート調査」のデータを再分析。主に付帯事業に関する結果を取りまとめた。

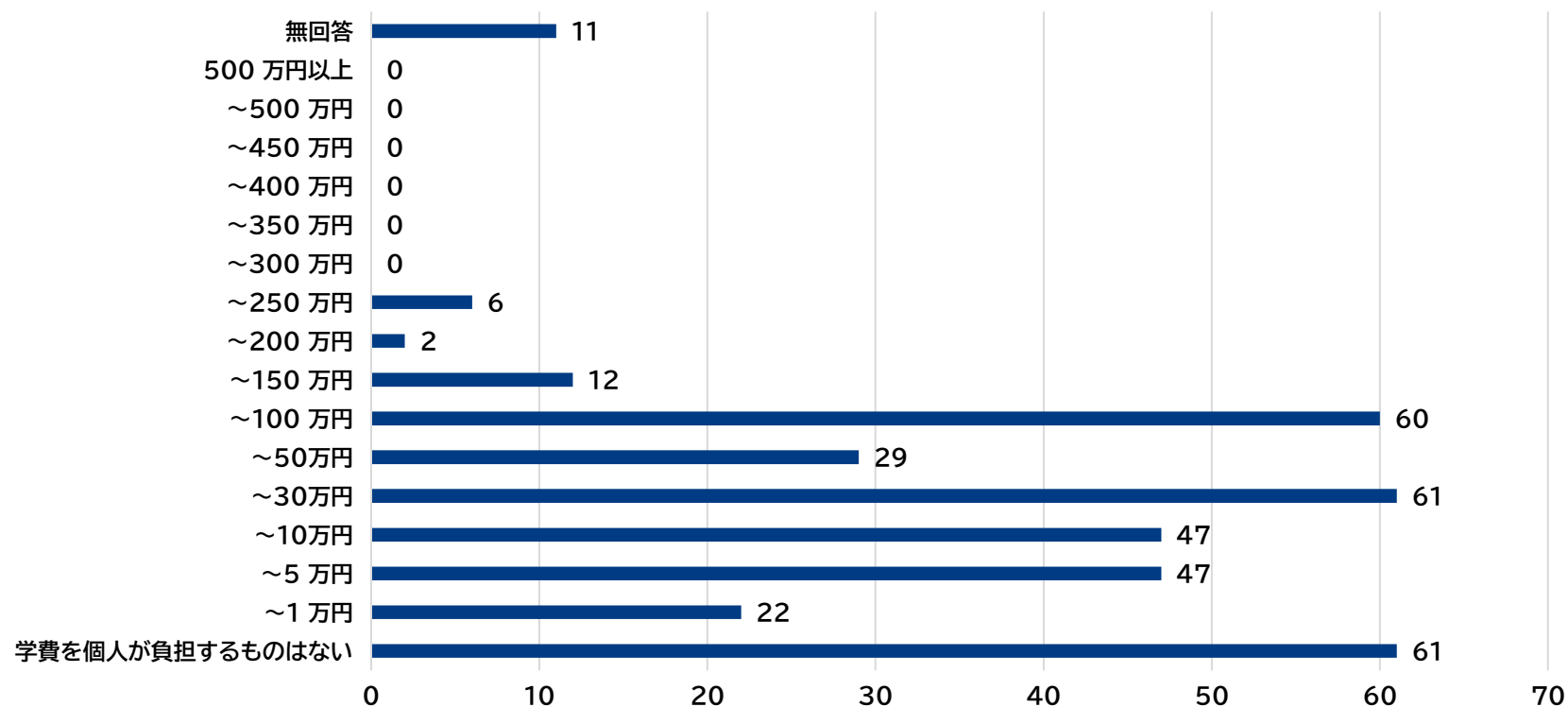
【調査結果の概要】

- 社会人等を対象とした付帯事業を行っているか(2021年5月時点)
 - 回答数: 1776
 - 付帯事業を行っている: 268 (15.1%)
 - 付帯事業を行っていない: 1370 (77.1%)
 - 無回答: 138 (7.8%)
- 付帯事業の実員(社会人等のみ)は何人か ※2020年度の実績
 - 平均 61人
- 付帯事業で受け入れている社会人等について、どのような制度や枠組みで社会人等を受け入れているか ※2020年度の実績
 - 公共職業訓練による受入: 平均 26人
 - 求職者支援訓練による受入: 平均 13人
 - その他公的機関からの受託事業: 平均 9人
 - その他(企業等からの委託等): 平均 57人

受講者個人が負担するひとりあたりの授業料／受講料について

- 一人当たりの授業料/受講料の回答について、回答数が多い上位3位は、“学費を個人が負担するものはない”(61回答) “11～30万円” (61回答) “51～100万円” (60回答)となっている。

受講者個人が負担するひとりあたりの授業料／受講料について (回答総数 358)

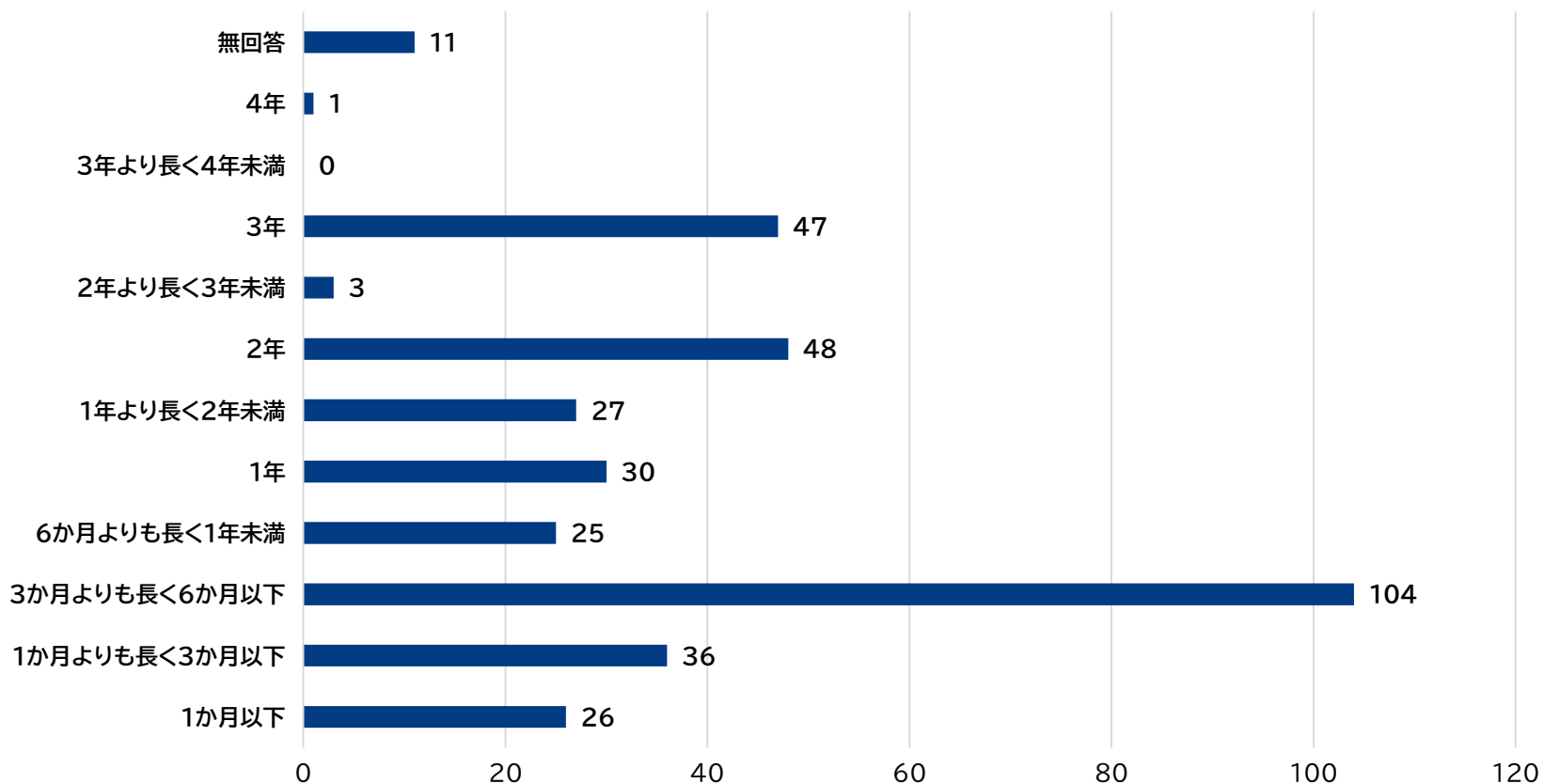


附帯事業1回のプログラム期間

- 附帯事業1回のプログラム期間については、“3か月よりも長く6か月以下”が最多(104回答)となっている。

附帯事業1回のプログラム期間

(回答総数 358)

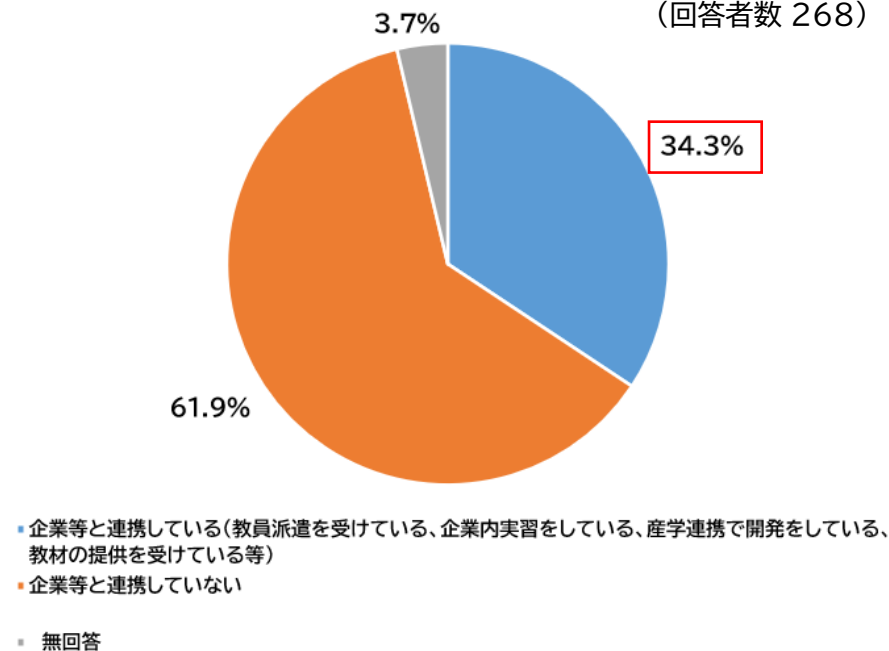


(出所)令和3年度専門学校における社会人等受入れ等実態に関するアンケート調査より三菱総合研究所が作成

附帯事業における企業等との連携状況

- 附帯事業の中で企業等と連携している割合は回答全体の34.3%となっている。
- 連携内容について、回答が多かった上位3位は、“教員派遣を受けている”が最多で53.3%、“企業内実習を取り入れている”（41.3%）、“校外学習(職場見学等)を取り入れている”（38.0%）となっている。

附帯事業の中で、企業等と連携しているものはありますか
(回答者数 268)



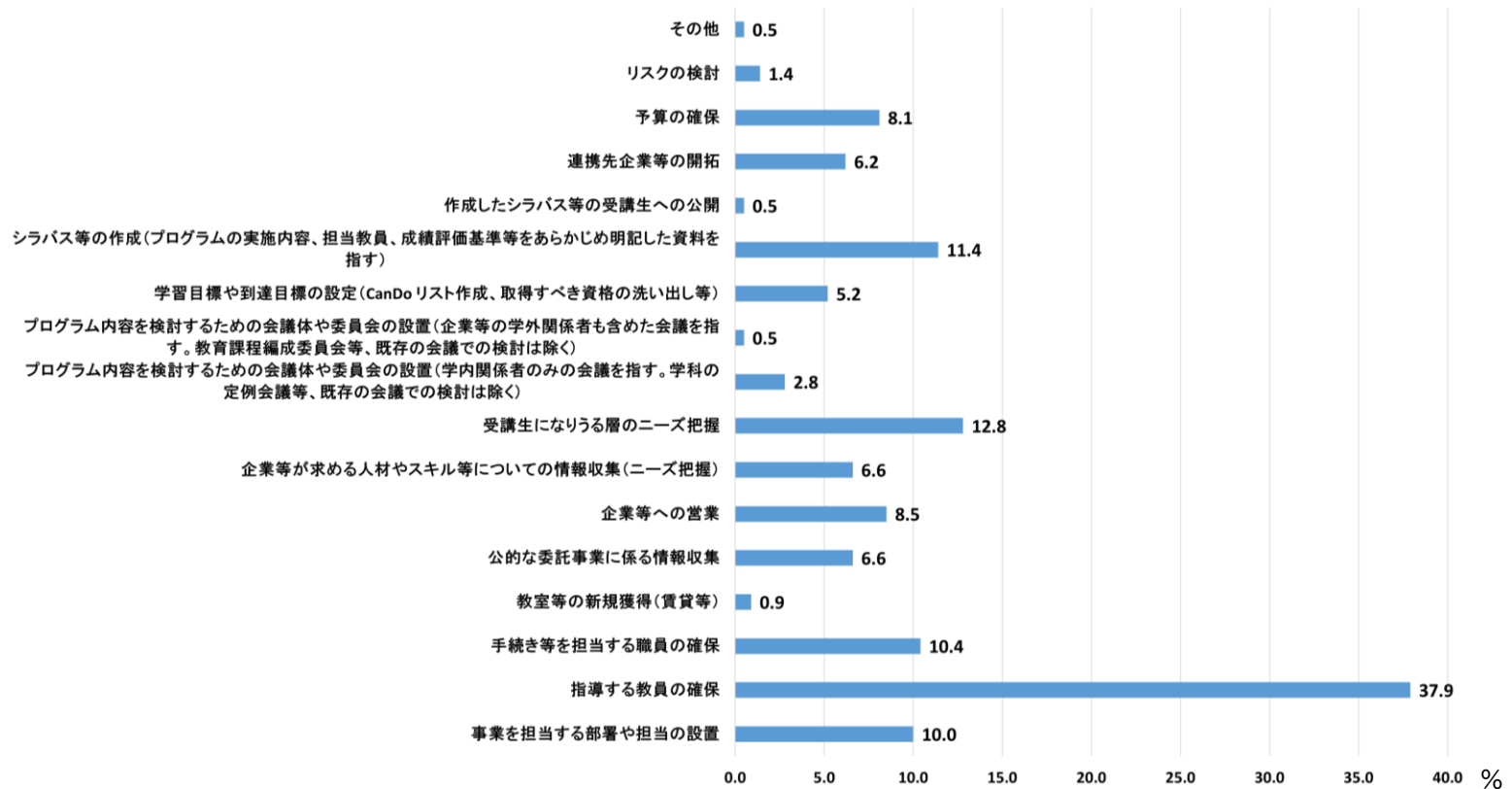
企業等と連携している場合、どのような連携ですか(回答者数 92)
(複数回答)



企画・準備(PDCAサイクルのP)の段階で行った取組において感じた困難

- 付帯事業について企画・準備段階で行った取組について、特に難しかった取組は、“指導する教員の確保”が最多(37.9%)となっている。
- “受講生になり得る層のニーズ把握” “シラバス等の作成” “手続き等を担当する職員の確保” “事業を担当する部署や担当の設置”も10%以上あり、他の項目と比較し高い水準。

【付帯事業について】企画・準備段階で行った取組について、特に取り組むのが難しかった取組 (回答者数 211)
(上位3つまで選択)

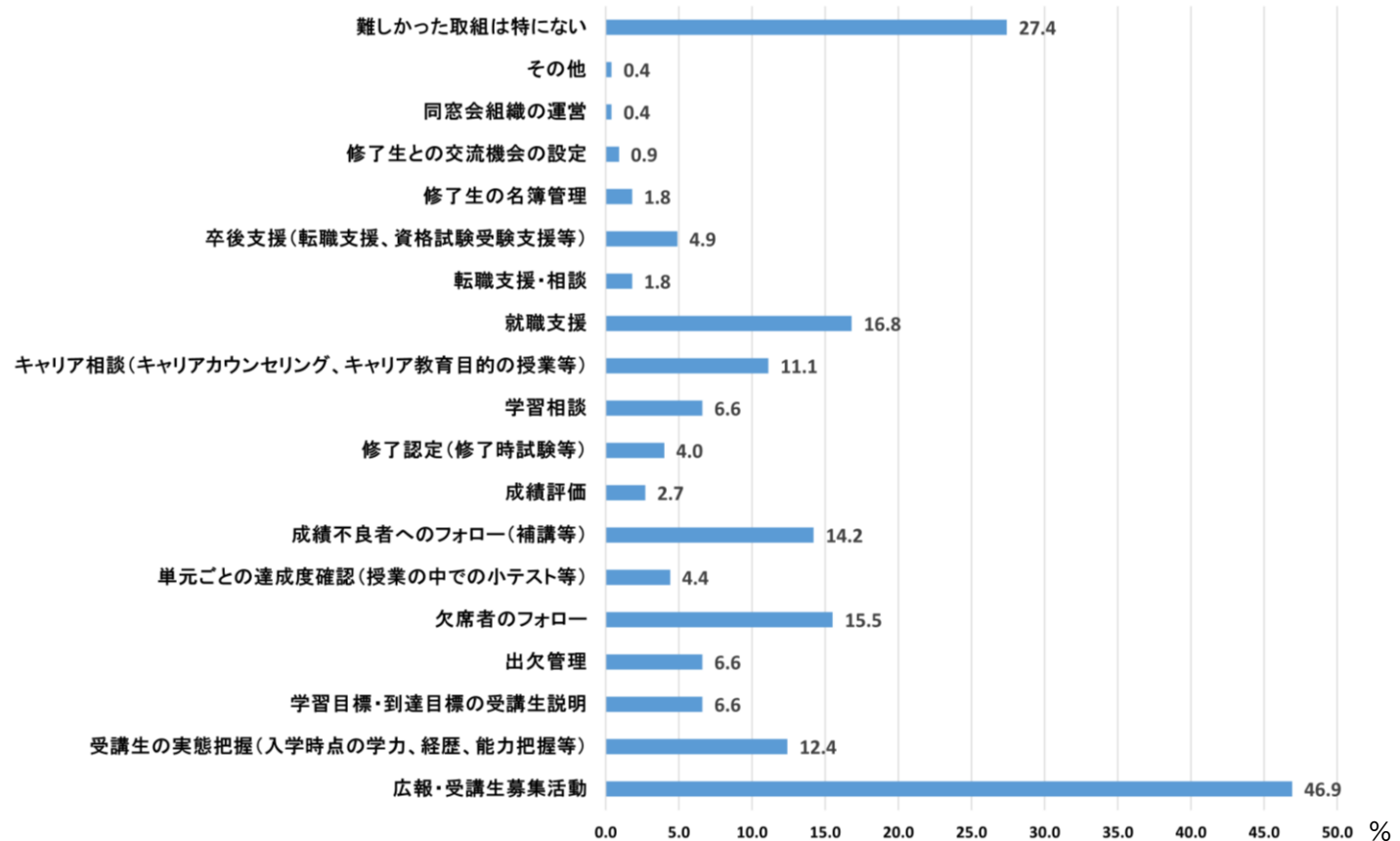


(出所)令和3年度専門学校における社会人等受入れ等実態に関するアンケート調査より三菱総合研究所が作成

実施(PDCAサイクルのD)の段階で行った取組において感じた困難

- 付帯事業について実施段階で行った取組について、特に難しかった取組の上位3位は、“広報・受講生募集活動”(46.9%)、“就職支援”(16.8%)、“欠席者のフォロー(補修等)”(15.5%)となっている。

【付帯事業について】実施段階で行った取組について、特に取り組むのが難しかった取組 (回答者数 226)
(上位3つまで選択)

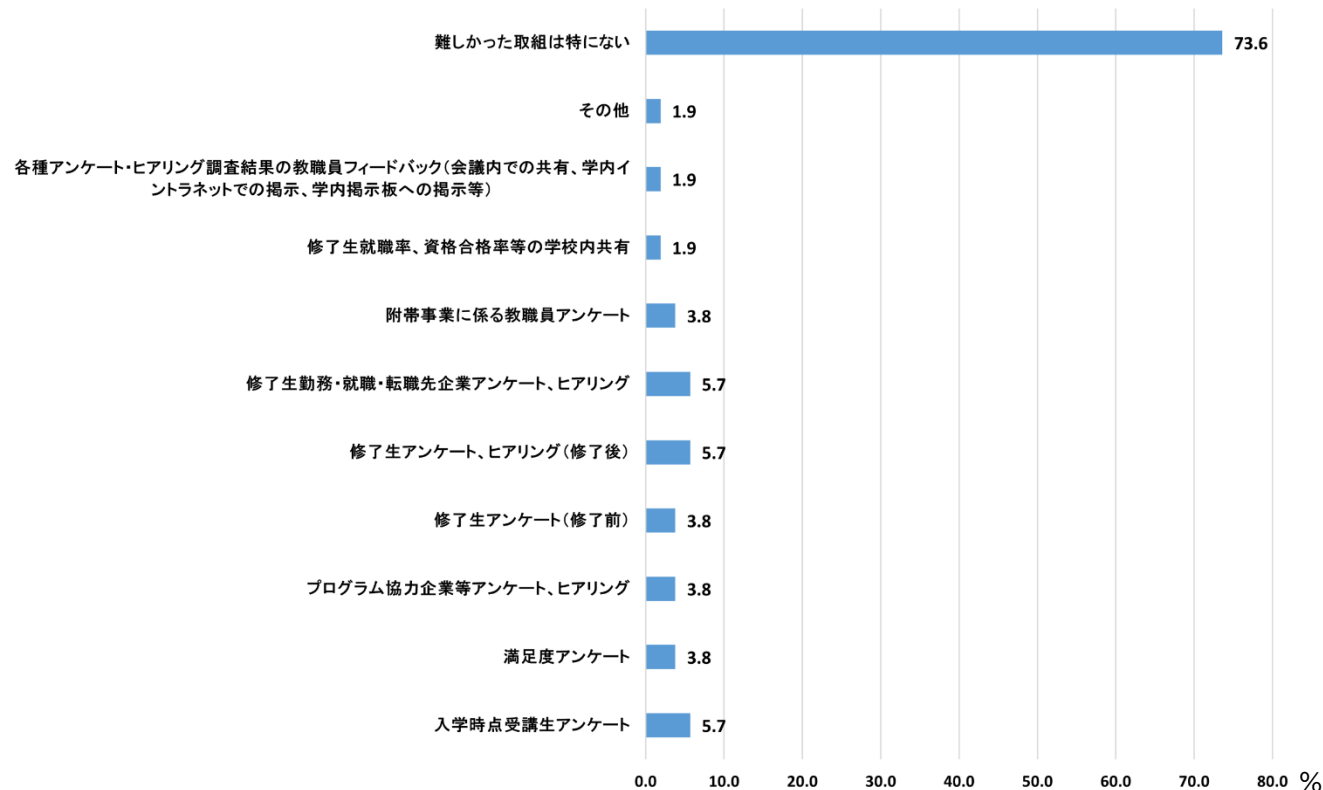


(出所)令和3年度専門学校における社会人等受入れ等実態に関するアンケート調査より三菱総合研究所が作成

評価(PDCAサイクルのC)の段階で行った取組において感じた困難

- 付帯事業について評価段階で行った取組について、特に難しかった取組は、全般的には大差のない結果となっているものの、“修了生勤務・就職・転職先企業アンケート、ヒアリング” “修了生アンケート、ヒアリング(修了後)” “入学時点受講生アンケート”が5%を超えており、他の項目よりやや高い傾向にある。

【付帯事業について】評価段階で行った取組について、特に取り組むのが難しかった取組 (回答者数 53)
(上位2つまで選択)

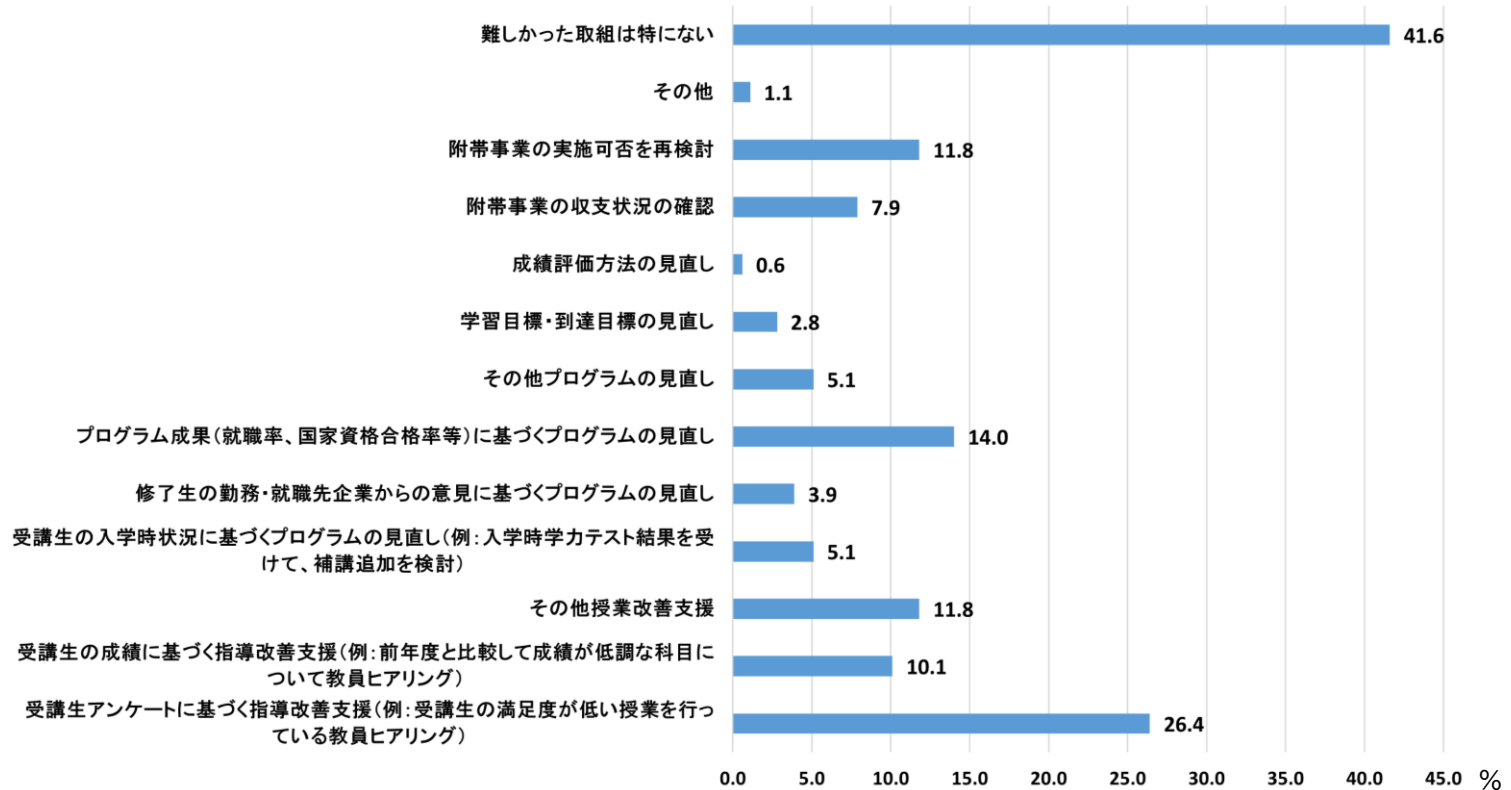


(出所)令和3年度専門学校における社会人等受入れ等実態に関するアンケート調査より三菱総合研究所が作成

改善(PDCAサイクルのA)の段階で行った取組において感じた困難

- 付帯事業について改善段階で行った取組について、特に難しかった取組の上位3位は、“受講生アンケートに基づく指導改善支援”(26.4%)、“プログラム成果に基づくプログラムの見直し”(14.0%)、“付帯事業の実施可否を再検討”(11.8%)となっている。

【付帯事業について】改善段階で行った取組について、特に取り組むのが難しかった取組 (回答者数 178)
(上位3つまで選択)



(出所)令和3年度専門学校における社会人等受入れ等実態に関するアンケート調査より三菱総合研究所が作成

未来を問い続け、変革を先駆ける

MRI 三菱総合研究所